Trademark of the Leica Camera Group/® Registered Trademark
© 2012 Leica Camera AG

LEICA X2
取扱説明書

Leica
LEICA X2
Leica
LEICA X2
LEICA
ELMARIT 1:2,8/24 ASPH.
4236510

はじめに

お客様へ

このたびは、ライカX2をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ライカX2は、自動露出モードやオートフラッシュ機能を装備しており、手軽に撮影が楽しめます。また、マニュアル露出モードも装備しているので、思いどおりの写真に仕上げられます。
レンズは高性能な「ライカ エルマリート f2.8/24mm ASPH.」で、高画質な撮影が可能です。
その他にも多彩な機能を装備しているので、撮影が難しいシーンでも美しく描写できます。
ライカX2を正しく十分にご活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。
ライカX2の機能と性能をご活用のうえ、末永くご愛用ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

この取扱説明書は完全無塩素漂白紙を使用しています。無塩素漂白紙は、その優れた製造工程により水系への負荷を軽減するため、環境保護に貢献しています。

付属品

本機をご使用になる前に、下記の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

A. 充電式リチウムイオンバッテリー BP-DC 8
（商品コード 18706）

B. バッテリーケース
（商品コード 423-089.003-012）

C. バッテリーチャージャー BC-DC 8（着脱式電源プラグ付き）
（商品コード 423-089.003-008）

D. USBケーブル
（商品コード 423-089.003-022）

E. レザーキャリングストラップ
（商品コード 439-612.060-000）

F. レンズキャップ
（商品コード 423-097.001-024）

G. アクセサリーシュー/ファインダーソケット用カバー
（商品コード 439-097.001-026）

H. ユーザー登録用のブックレット（Adobe®Photoshop®Lightroom®ダウンロード用の番号付き）
Adobe®Photoshop®Lightroom®は、ユーザー登録後にライカのホームページからダウンロードしてください。

本機に貼付されているCEマークは、EC指令に適合していることを示しています。

ご注意

- 現代の電子機器は、静電気放電の影響を受けやすくなっています。合成繊維のカーペットの上を歩くなどすると、人体に大量の静電気が帯電し、特に導電性のものの上に本機が置かれていた場合には、本機に触れると静電気放電が発生します。静電気が電子回路に侵入しなければ、不具合は生じません。また、本機は安全回路を装備していますが、安全上の理由から、本機の下部などにある端子部には手を触れないでください。
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布をお使いください。レンズ用のマイクロファイバークロス（合成繊維）は使用しないでください。お手入れの前には、接地された導電性のもの（暖房器具のパイプや水道管）に触れて、静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、レンズキャップを取り付けて、乾いた場所で保管してください。
- 指定以外のアクセサリーは使用しないでください。故障、感電、ショートの原因となります。
- 本機の部品を取り外さないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。

著作権と商標について

- あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 本機に付属するすべてのソフトウェアの著作権その他一切の権利は、正当な権限を有する第三者に帰属します。
- SDロゴ、HDMIロゴ、USBロゴは登録商標です。
- 本書に記載されているその他の名称、企業名、製品名は、当該各社の商標または登録商標です。

電気・電子機器の廃棄について

（分別廃棄を実施するEU諸国およびその他のヨーロッパ諸国のみ）

この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。回収は無料となっています。
電池や充電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電池を取り外してから回収場所にお持ちください。電池や充電地は、必要に応じてお住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体またはご購入店にお問い合わせください。

目次

各部の名称

正面（別売のハンドグリップを装着し、フラッシュを収納した状態）

1.1　キャリングストラップ取り付け部

1.2　セルフタイマーLED / AF補助光ランプ

1.3　レンズ

1.4　ハンドグリップ
　a. 取り付け用ねじ

上面

1.5　フラッシュ

1.6　レンズリング

1.7　メインスイッチ
　- **OFF**：本機の電源を切ります。
　- **S**：1枚撮影するときに選びます。
　- **C**：連続撮影するときに選びます。

1.8　シャッターボタン

1.9　絞りダイヤル
　- **A**：絞り値が自動設定されます。
　（シャッタースピード優先AEモード、プログラムAEモード）

1.10　シャッタースピードダイヤル
　- **A**：シャッタースピードが自動設定されます。
　（絞り優先AEモード、プログラムAEモード）

1.11　アクセサリーシュー
　a. 中央（シンクロ）接点
　b. 制御接点
　c. ロックピン用の穴

背面

1.12　**INFO**ボタン
　- 撮影モードおよび再生モードで画面に表示される情報を切り換えます。
　- 移動したAFフレームを中央に戻します。
　- 解像度、記録形式/圧縮率、ホワイトバランス、フィルム選択、手ぶれ補正機能の設定内容を表示します。
　1秒以上押し続けると表示され、約5秒後に消灯します。

1.13　**ISO**ボタン
　- **ISO**感度メニューを表示します。

1.14　**WB**ボタン
　- ホワイトバランスメニューを表示します。

1.15　**DELETE/FOCUS**ボタン
　- 消去メニューを表示します。
　- AFモードメニューを表示します。
　- AFフレームを表示します。

1.16　**PLAY**ボタン
　- 再生モード（PLAYモード）に切り換えます。
　- 画像の拡大表示/一覧表示を1枚表示に戻します。

1.17　フラッシュポップアップレバー

1.18　電子ビューファインダー（別売）用ソケット[1]（カバーを外した状態）

1.19　フォーカス/露出ステータスLED
　シャッターボタンを半押ししたときのみ機能します。マニュアルフォーカス時は機能しません。
　a. 点滅：　ピントを合わせることができません。
　b. 点灯：　ピントと露出が固定されています。

1.20　設定ホイール
　- マニュアルフォーカス時にピントを合わせます。
　- メニュー項目をまとめてスクロールします。
　- 1枚表示時/拡大表示時に画像を切り換えたり、一覧表示時に画像を選んだりします。

[1] ライカ EVF 2（72ページ）専用のソケットです。

1.21 USB端子/HDMI端子カバー
1.22 設定ダイヤル
- メニュー画面/サブメニューでメニュー項目/設定内容を選びます。
- 露出補正値、オートブラケット撮影のステップ幅、フラッシュ発光量調整値を設定します。
- Scrolling through picture memory
- 画像を拡大表示/一覧表示します。
1.23 **EV+/-** EV+/- 十字ボタン
- 露出補正、オートブラケット撮影、フラッシュ発光量調整の各メニューを表示します。
- メニュー画面/サブメニューでメニュー項目/設定内容を選びます。
- 一覧表示時に画像を選びます。
- AFフレームを移動します。
1.24 ϟ 十字ボタン
- フラッシュモードメニューを表示したり、フラッシュモードメニューで設定内容を選んだりします。
- サブメニューを表示します。
- 1枚表示時に画像を切り換えたり、一覧表示時に画像を選んだりします。
- AFフレームを移動します。
1.25 **MENU/SET**ボタン
- メニュー画面を表示します。
- メニュー項目の設定内容を決定し、メニュー画面/サブメニューを閉じます。
1.26 **AF/MF** AF/MF 十字ボタン
- フォーカスモードメニューを表示します。
- メニュー画面/サブメニューでメニュー項目/設定内容を選びます。
- 一覧表示時に画像を選びます。
- AFフレームを移動します。
1.27 ⏲ 十字ボタン
- セルフタイマーメニューを表示したり、セルフタイマーメニューで設定内容を選んだりします。
- メニュー項目の設定内容を変更せずにサブメニューを閉じます。
- AFフレームを移動します。

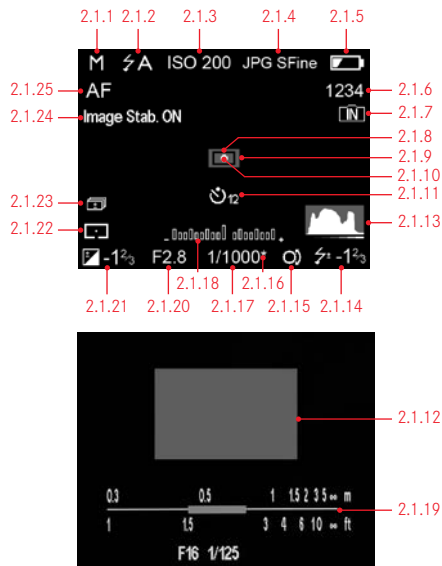
1.28 LEDランプ
- 画像データの読み込み/書き込み中に点灯します。
数秒間だけ点灯します。また、液晶モニターが消灯しているときに点灯します。
1.29 液晶モニター

右側面 (カバーを開けた状態)
1.30 USB端子
1.31 HDMI端子

底面
1.32 バッテリー/メモリーカード収納部のふた
a. ロックレバー
1.33 三脚ねじ穴 A1/4 (1/4インチ、DIN 4503に準拠)
1.34 ハンドグリップ用ガイドピンの穴 (カバーを開けた状態)
1.35 バッテリーロックレバー
1.36 バッテリー収納部
1.37 メモリーカードスロット

バッテリーチャージャー
1.38 バッテリー取り付け部
a. 端子部
1.39 充電ランプ
1.40 着脱式電源プラグ
1.41 電源プラグ固定ボタン (電源プラグを取り外した状態)
1.42 栓刃

画面の表示

2.1 撮影モード

メモ

本書に記載されている画面の表示はすべて、電子ビューファインダー ライカ EVF 2（別売）の画面にも表示されます。ライカ EVF 2の表示切換ボタンを押すと、液晶モニターの表示とファインダー画面の表示を切り換えることができます。本書では、本機の液晶モニターに表示される場合について説明しています。

ライカ EVF 2についての詳細は、72ページまたはライカ EVF 2の取扱説明書をご覧ください。

2.1.1 露出モード
- a. **P**: プログラムAEモード
- b. **A**: 絞り優先AEモード
- c. **T**: シャッタースピード優先AEモード
- d. **M**: マニュアル露出モード

2.1.2 フラッシュモード

内蔵フラッシュまたは外部フラッシュ使用時に、フラッシュ充電中は赤字で点滅し、充電が完了すると白字で点灯します。
- a. ⚡A: オートモード
- b. ⚡A◉: 赤目軽減オートモード
- c. ⚡: 強制発光モード
- d. ⚡◉: 赤目軽減強制発光モード
- e. ⚡S: スローシンクロモード
- f. ⚡S◉: 赤目軽減スローシンクロモード
- g. ⚡Studio: スタジオモード（発光量は一定、スレーブ発光用）

2.1.3 ISO感度

フラッシュ不使用時は2.1.2の位置に表示されます。［**ISOオート**］設定時は、液晶モニターが消灯していても、シャッターボタンを半押しすると表示されます。
- a. **AUTO ISO**
- b. **100**
- c. **200**
- d. **400**
- e. **800**
- f. **1600**
- g. **3200**
- h. **6400**
- I. **12500**

2.1.4 記録形式/圧縮率
- a. **JPG Super fine**
- b. **JPG fine**
- c. **DNG + JPG S. fine**
- d. **DNG + JPG fine**

2.1.5 バッテリー残量表示

a. : 残量が十分にあります。

b. : 残量が減り始めました。

c. : 残量が少なくなっています。

d. : バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

2.1.6 フレームカウンター（撮影可能枚数）

メモリーカードや内蔵メモリーの容量が少ないときは、「0」が点滅して警告します。

2.1.7 内蔵メモリー使用表示

メモリーカードが入っていないときに点灯します。

2.1.8 スポットAFフレーム

スポットAFモード時のみ表示されます。

2.1.9 AFフレーム

2.1.10 スポット測光ポイント

スポット測光時のみ表示されます。

2.1.11 セルフタイマー（設定中/作動中）

a. : 2秒

b. : 12秒

2.1.12 拡大表示枠

マニュアルフォーカス時でMFアシスト設定時のみ表示されます。

2.1.13 ヒストグラム

設定時のみ表示されます。通常は白色で表示されます。フラッシュ使用時やシャッタースピードが1/2秒より遅く設定されたときは黄色で表示されます。

2.1.14 フラッシュ発光量調整マーク/調整値

オートフォーカス時は2.1.37の位置に表示されます。

2.1.15 設定ダイヤル使用表示

プログラムAEモード時に設定ダイヤルでプログラムシフトできることを示します。

シャッタースピードダイヤルを「1+」に設定したときに、設定ダイヤルでシャッタースピードを1秒より遅く設定できることを示します。

2.1.16 プログラムシフト使用表示

プログラムAEモード時に、プログラムシフトでシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更したときに表示されます。

2.1.17 シャッタースピード

シャッタースピード優先AEモード時およびマニュアル露出モード時に、手動設定したシャッタースピードが表示されます。

プログラムAEモード時および絞り優先AEモード時にシャッターボタンを半押しすると、自動設定されたシャッタースピードが表示されます。

通常は白色で表示されます。プログラムAEモード時、シャッタースピード優先AEモード時、絞り優先AEモード時に、シャッターボタン半押し後に露出アンダーまたは露出オーバーになると判断された場合は、赤色で表示されます。

2.1.18 露出レベル

マニュアル露出モード時のみ表示されます。設定により2.1.19が表示されます。

2.1.19 距離目盛/被写界深度バー

マニュアルフォーカス時のみ表示されます。目盛はメートルおよびフィート表示です。

2.1.20 絞り値

絞り優先AEモード時およびマニュアル露出モード時に、手動設定した絞り値が表示されます。

プログラムAEモード時およびシャッタースピード優先AEモード時にシャッターボタンを半押しすると、自動設定された絞り値が表示されます。

通常は白色で表示されます。プログラムAEモード時、シャッタースピード優先AEモード時、絞り優先AEモード時に、シャッターボタン半押し後に露出アンダーまたは露出オーバーになると判断された場合は、赤色で表示されます。

2.1.21 露出補正マーク/露出補正値

マニュアル露出モード時は表示されません。

2.1.22 測光モード

a. : 中央部重点測光

b. : マルチパターン測光

c. : スポット測光

2.1.23 オートブラケット撮影マーク

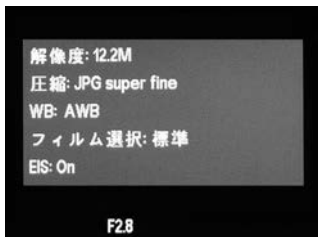
2.1.24 手ぶれ補正

2.1.25 フォーカスモード

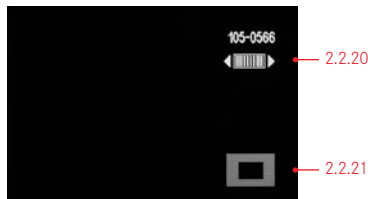
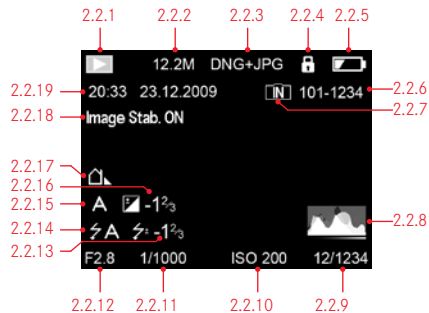
a. **AF**: オートフォーカス

b. **MF**: マニュアルフォーカス

画面の表示

2.1 撮影モード

2.1.26 **INFO**-表示 - INFOボタンを1秒以上押すと表示されます。

- 解像度
- 記録形式/圧縮率
  (2.1.4を参照)
- ホワイトバランス
  ホワイトバランス微調整時は＊マークが点灯します。
  a. AWB：オート
  b. : 白熱灯
  c. : 太陽光
  d. : フラッシュ
  e. : 曇天
  f. : 日陰
  g. : 手動設定1
  h. : 手動設定2
  i. K: 色温度設定
- フィルム選択 (**色調**)
- 手ぶれ補正機能のOn/Off

2.2 再生モード

2.2.1　再生モード表示

2.2.2　解像度

2.2.3　記録形式/圧縮率
（2.1.4を参照）

2.2.4　プロテクトマーク

2.2.5　バッテリー残量表示
（2.1.5を参照）

2.2.6　フォルダ番号/ファイル番号

2.2.7　内蔵メモリー使用表示
メモリーカードが入っていないときに点灯します。

2.2.8　ヒストグラム
（2.1.13を参照）

2.2.9　画像番号/メモリーカード内の総画像数

2.2.10　ISO感度
（2.1.3を参照）

2.2.11　シャッタースピード
（2.1.17を参照）

2.2.12　絞り値
（2.1.20を参照）

2.2.13　フラッシュ発光量調整値
（2.1.14を参照）

2.2.14　フラッシュモード
（2.1.2を参照）

a. 表示なし：フラッシュ不使用

b. ⚡A、⚡、⚡S、⚡Studio: フラッシュ使用（予備発光あり）

c. ⚡A◉、⚡◉、⚡S◉: フラッシュ使用（予備発光なし）

2.2.15　露出モード（2.1.1を参照）

2.2.16　露出補正値（2.1.21を参照）

2.2.17　ホワイトバランス（2.1.26を参照）

2.2.18　手ぶれ補正（2.1.24を参照）

2.2.19　撮影日付

2.2.20　設定ホイールマーク
拡大表示した画像を切り換えるために設定ホイール（1.20）が使えることを示します。

2.2.21　拡大表示位置

メニュー項目一覧

	メニュー項目	説明	ページ
3.1	**解像度**	解像度を設定します。	36
3.2	**圧縮**	記録形式/圧縮率を設定します。	36
3.3	**ISOオート設定**	ISO感度をオートに設定したときの機能について設定します。	38
3.4	**測光モード**	測光モードを選びます。	46
3.5	**連写**	連写速度を選びます。	24
3.6	**AF補助光**	低照度時にオートフォーカスでピントを合わせやすくするAF補助光を設定します。	41
3.7	**MFアシスト**	マニュアルフォーカスでピントを合わせやすくする拡大表示枠を設定します。	45
3.8	**手ぶれ補正**	手ぶれ補正機能を設定します。	61
3.9	**フィルム選択**	画像の色調を選びます。	39
3.10	**シャープネス**	画像のシャープネスを調整します。	38
3.11	**彩度**	画像の彩度を調整します。	38
3.12	**コントラスト**	画像のコントラストを調整します。	38
3.13	**光学ファインダー**	ブライトフレームファインダー（別売）使用時に液晶モニターを消灯する機能を設定します。	35
3.14	**フラッシュ発光**	フラッシュ発光のタイミングを選びます。	56
3.15	**液晶明るさ**	液晶モニターの明るさを調整します。	35
3.16	**EVF明るさ**	電子ビューファインダー（別売）の明るさを調整します。	35
3.17	**液晶色調整**	液晶モニターの色を調整します。	35
3.18	**EVF色調整**	電子ビューファインダー（別売）の色を調整します。	35
3.19	**常に液晶で再生**	電子ビューファインダー（別売）使用時に液晶モニターに画像を表示する機能を設定します。	34
3.20	**撮影ヒストグラム**	撮影モードでのヒストグラム表示について設定します。	47
3.21	**再生ヒストグラム**	再生モードでのヒストグラム表示について設定します。	47
3.22	**番号リセット**	新しいフォルダを作成します。	60
3.23	**オートレビュー**	撮影直後に画像を自動表示する機能について設定します。	26
3.24	**オートパワーオフ**	カメラを自動的にスタンバイモードにする機能について設定します。	33
3.25	**オート液晶オフ**	液晶モニターや電子ビューファインダー（別売）の画面を自動的に消灯する機能について設定します。	35
3.26	**色空間**	色空間を設定します。	60
3.27	**日付**	日付を設定します。	32
3.28	**時間**	時間を設定します。	32
3.29	**シャッター音音量**	シャッター音の音量について設定します。	33
3.30	**電子音**	電子音/メモリーカードの空き容量がなくなったときの警告音について設定します。	33
3.31	**Language**	表示言語を設定します。	32
3.32	**回転表示**	縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示する機能を設定します。	68
3.33	**HDMI**	HDMI対応機器への出力解像度を設定します。	68
3.34	**プロテクト**	画像のプロテクト/プロテクト解除を設定します。	66
3.35	**コピー**	内蔵メモリーからメモリーカードに画像をコピーします。	60
3.36	**フォーマット**	メモリーカードをフォーマット（初期化）します。	59
3.37	**ファームウェア**	ファームウェアのバージョンを表示します。	71
3.38	**カスタム設定**	好みの設定を保存したり呼び出したりします。	61

操作ガイド（クイックスタート編）

用意するもの
- カメラ
- バッテリー（A）
- バッテリーチャージャーとお使いになる国に対応した電源プラグ（C）
- メモリーカード（別売）

準備する

1. お使いになる国に対応した電源プラグをバッテリーチャージャー（C）に取り付けます（19ページ）。
2. バッテリー（A）をバッテリーチャージャーに取り付けます（19ページ）。
3. バッテリーチャージャーの電源プラグをコンセントに差し込み、バッテリーを充電します（19ページ）。
4. メインスイッチ（1.7）が「OFF」になっていることを確認します（24ページ）。
5. 充電したバッテリーをカメラに入れます（20ページ）。
6. メモリーカードを入れます（22ページ）。
7. レンズキャップ（F）を取り外します。
8. メインスイッチ（1.7）を「S」にします（24ページ）。
9. 日付と時間を設定します（32ページ）。
10. 表示言語を選びます（32ページ）。

撮影する

11. 撮影の設定を行います。
    a. シャッタースピードダイヤル（1.10）と絞りダイヤル（1.9）を「A」にします（46ページ）。
    b. フォーカスモードを「AF」にします（40ページ）。
    c. 測光モードを「 」にします（46ページ）。

メモ

上記の設定にすることで、素早く簡単に最適な撮影が行えます。それぞれのモードや機能についての詳細は、記載の各ページをご覧ください。

12. シャッターボタン（1.8）を半押ししてピントと露出を合わせます（44ページ）。
13. シャッターボタンを全押しして撮影します。

画像を再生する

1. PLAYボタン（1.16）を押します。
2. 十字ボタンの右/左ボタン（1.23/1.27）を押すと、表示画像を切り換えることができます。

画像を拡大表示する

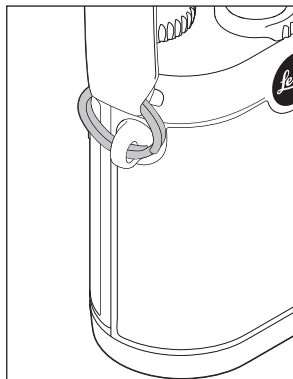
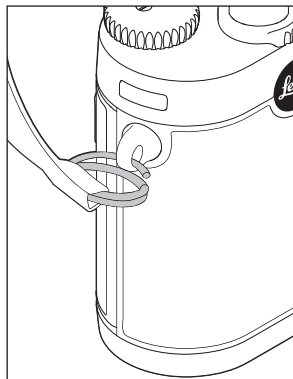
設定ダイヤル（1.22）を時計回りに回します（62ページ）。

画像を消去する

DELETE/FOCUSボタン（1.15）を押し、表示されたメニューで消去方法を選びます。

操作ガイド（詳細編）

使用前の準備

キャリングストラップの取り付けかた

バッテリーを充電する

本機をお使いになるためには、充電式リチウムイオンバッテリー（A）が必要です。

ご注意

- 本書またはライカで指定したバッテリー以外は使用しないでください。指定以外のバッテリーを使用すると、本機やバッテリーの故障の原因となるだけでなく、最悪の場合は破裂するおそれがあります。
- 付属のバッテリーを本機以外には使用しないでください。また、本書の説明に従って正しく充電してください。
- 本書の説明に従わずにバッテリーを使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- バッテリーを直射日光の当たる場所や高温多湿の場所に放置しないでください。また、電子レンジや高圧容器に入れないでください。破裂や発火の原因となります。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。
- ぬれたバッテリーや湿ったバッテリーは、絶対に使用したり充電したりしないでください。
- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリーなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合には、外装や端子部が破損しなかったか直ちに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。

- バッテリーの使用中や充電中に、異音、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気づいたときは、本機やバッテリーチャージャーから直ちに取り出してください。そのまま使用や充電を続けると、破裂や発火の原因となります。
- バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火するおそれがあります。
- 本書またはライカで指定したバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。指定以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーの故障の原因となるだけでなく、最悪の場合は死亡や重傷を負うおそれがあります。
- 付属のバッテリーチャージャーでは、専用バッテリー以外は充電しないでください。また、バッテリーチャージャーを他の用途に使用しないでください。
- バッテリーチャージャーを使用するときは、コンセントの周りにほこりがたまっていないか確認してください。
- バッテリーおよびバッテリーチャージャーを分解しないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにご依頼ください。
- バッテリーは幼児の手の届かないところに置いてください。バッテリーを飲み込むと、窒息するおそれがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

バッテリーから漏れた液が人体などに付着した場合の処置

- 液が目に入った場合は、失明の原因となることがあります。目をこすらずに、直ちにきれいな水でよく洗ったあとに、医師の治療を受けてください。
- 液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に障害を起こすおそれがあります。直ちにきれいな水でよく洗い流してください。医師に相談する必要はありません。

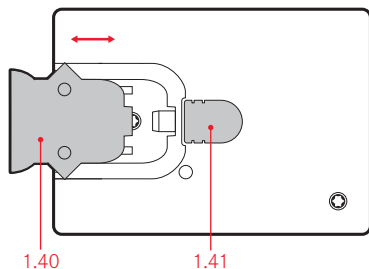
メモ

- バッテリーはカメラ本体から取り出して充電してください。
- バッテリーはお買い上げ時には充電されていませんので、充電してからお使いください。
- バッテリーは0〜35℃の場所で充電してください。これ以外の温度では、まったく充電できないか、一度充電中になっても再度充電できない状態になります。
- リチウムイオンバッテリーは、残量にかかわらずいつでも継ぎ足し充電ができます。残量が多い状態で充電すれば、短時間で充電が完了します。
- バッテリーを取り出して保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください。長期間保管する場合は、過放電を避けるために、半年に1度15分ほど充電してください。
- 充電中はバッテリーとバッテリーチャージャーが温かくなりますが、異常ではありません。
- 新しいバッテリーは、フル充電してから完全放電させる(本機に入れて使い切る)というサイクルを最初に2、3回行うことで、性能を十分に発揮できるようになります。その後もこのサイクルを25回に1回ほど行うことをおすすめします。
- 充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。バッテリーを長持ちさせるために、夏季や冬期の自動車内など、極端に暑い場所や寒い場所に放置しないでください。
- バッテリーには寿命があります。最適な条件のもとで使用し続けても、数百回の充電を重ねると容量が低下し、使用時間が極端に短くなります。
- 不要になったバッテリーは、お住まいの自治体の条例や規則に従い(5ページ)、リサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。
- 本機はバックアップ電池を内蔵しています。バックアップ電池は、日付と時間の設定を最大2日間保存するためのもので、バッテリーを電源としています。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。充電を始めてから約60時間後にフル充電になります。充電中は本機の電源を入れる必要はありません。また、バックアップ電池が放電してしまった場合は、日付と時間の設定が失われますので、再設定してください。
- 本機は、電源を切っても日付などの設定の保存に微量の電流を使用するため、数週間後には多量の電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。本機を長期間使用しない場合は、メインスイッチで電源を切り(24ページ)、バッテリーを取り出してください。

バッテリーチャージャーを準備する

バッテリーチャージャー（C）には、お使いになる国に対応した電源プラグ（1.40）を取り付けてください。

電源プラグの取り付けかた

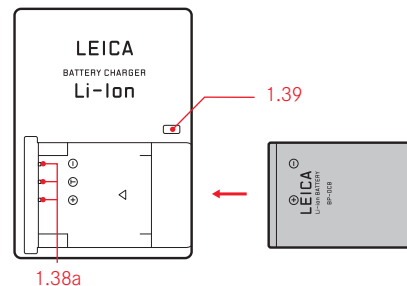
「カチッ」と音がするまで電源プラグを押し込みます。

電源プラグの取り外しかた

固定ボタン（1.41）を押しながら、電源プラグをスライドさせて取り外します。

メモ

バッテリーチャージャーは自動電圧切替式です。

バッテリーを充電する

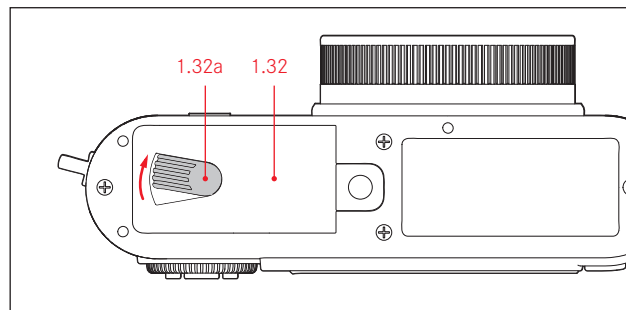
1. バッテリーチャージャーの電源プラグをコンセントに差し込みます。
2. 次の手順でバッテリーをバッテリーチャージャーに取り付けます。
   a バッテリーの端子部とバッテリー取り付け部の端子部（1.38a）が接触するように、バッテリーの向きを確認します。
   b. バッテリー取り付け部に平らに収まるように取り付けます。

充電ランプの表示

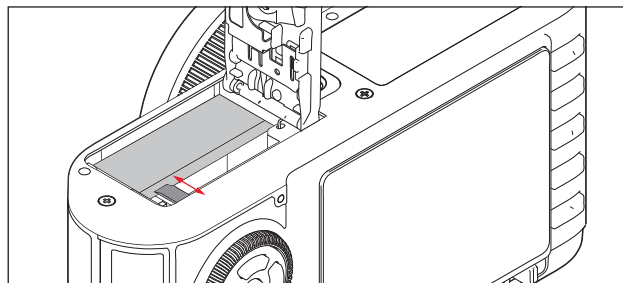
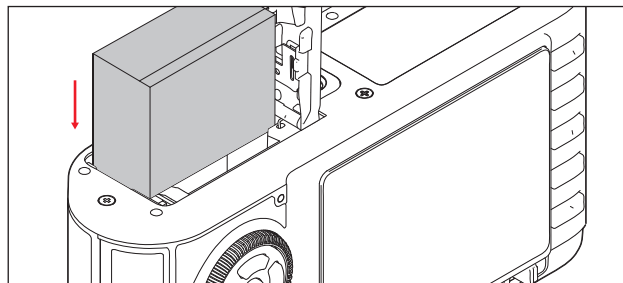
充電が始まると、充電ランプ（1.39）が赤色に点灯します。充電が完了すると、充電ランプが緑色に点灯します。

バッテリーとメモリーカードを入れる/取り出す

バッテリーやメモリーカードを入れたり取り出したりする前には、必ずメインスイッチ（1.7）で本機の電源を切ってください（24ページ）。

バッテリー/メモリーカード収納部のふたを開ける

ロックレバー（1.32a）を時計回りにスライドさせます。バネの作用でバッテリー/メモリーカード収納部のふた（1.32）が自動的に開きます。

バッテリーを入れる/取り出す

端子部がある側（一段高くなっている側）を本体背面に向けて、バッテリー（A）をバッテリー収納部（1.36）に入れます。グレーのバッテリーロックレバー（1.35）でバッテリーが固定されるまで押し込んでください。

バッテリーを取り出すときは、前ページの手順を逆に行ってください。バッテリー収納部のグレーのバッテリーロックレバーを横にスライドさせると取り出せます。

重要

本機の電源を入れたまま（24ページ）バッテリーを取り出すと、メニュー項目の設定内容（25ページ）が失われたり、メモリーカードが故障したりすることがあります。

バッテリー残量表示

バッテリー残量は画面に表示されます（10ページ、2.1.5）。

メモ

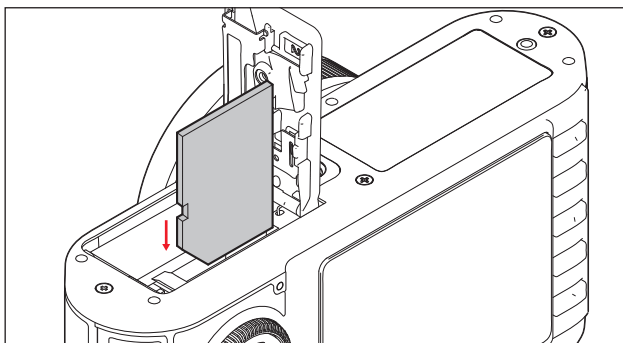
- 本機を長期間使用しない場合は、メインスイッチ（1.7）で電源を切り（24ページ）、バッテリーを取り出してください。
- バッテリー残量がない状態で約3日経過すると、日付と時間の設定が失われますので、再設定してください（32ページ）。

メモリーカードを入れる/取り出す

本機では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードが使用できます（本書では「メモリーカード」と表記しています）。これらのメモリーカードは書き込み防止スイッチを装備しているので、誤って画像を書き込んだり消したりしてしまう心配がありません。このスイッチは、カード本体の角が斜めになっていない側にあり、下側の「LOCK」の方向にスライドさせれば書き込み防止機能がオンになります。

メモリーカードは、さまざまなメーカーからさまざまな容量・転送速度のタイプが販売されています。

メモ

メモリーカードの端子部には手を触れないでください。

メモリーカードを入れるときは、端子部がある面をバッテリー収納部のある側に向けてメモリーカードスロット（1.37）に入れます。奥まで入れるとバネの感触がありますが、そのまま「カチッ」と音がするまで押し込んでください。

メモリーカードを取り出すときは、「カチッ」と音がするまでメモリーカードを軽く押し込みます。軽く押し込むとカードが押し出されてきます。

メモ

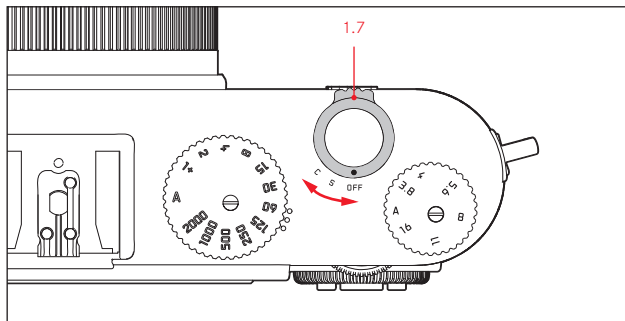
- 撮影した画像は、メモリーカードが入っているときはメモリーカードに記録されます。メモリーカードが入っていないときは内蔵メモリーに記録されます。
- メモリーカードがうまく入らない場合は、メモリーカードの向きが正しいか確認してください。
- メモリーカードの種類は多岐にわたるため、すべてのメモリーカードの動作確認は行っておりません。SanDisk社などの信頼性の高いメモリーカードを使用することをおすすめします。
  その他のメモリーカードを使用しても本機やメモリーカードが故障することはありませんが、特に一部のノーブランドのメモリーカードは品質基準を満たしていないため、本機での動作は保証しておりません。
- LEDランプ（1.28）が点灯しているときは、本機がメモリーカードにアクセス中ですので、バッテリー/メモリーカード収納部のふたを開けたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。メモリーカードに記録されたデータが破損したり、カメラが故障したりするおそれがあります。
- 電磁波、静電気、カメラ本体やメモリーカードの故障により、メモリーカードのデータが破損・消失することがあります。データをこまめにパソコンに取り込み（69ページ）、バックアップをとることをおすすめします。
- 同じ理由から、メモリーカードを帯電防止性のケースなどで保管することをおすすめします。

バッテリー/メモリーカード収納部のふたを閉じる

バッテリー/メモリーカード収納部のふた（1.32）を閉じて、ロックレバー（1.32a）を反時計回りにスライドさせます。

カメラの電源を入れる/切る
連写速度を選ぶ

電源のオン/オフはメインスイッチ（1.7）で行います。電源を入れるときは、メインスイッチを「S」（1枚撮影）または「C」（連続撮影）にします。電源を切るときは、メインスイッチを「OFF」にします。

- 電源を入れると、液晶モニターが撮影モードの画面（2.1）になります。

メモ

レンズキャップを付けたまま本機の電源を入れると、「レンズキャップを外していずれかのボタンを押してください」というメッセージが画面に表示されます。また、レンズキャップを付けたまま本機がスタンバイモード（33ページ）から復帰したときも同じメッセージが表示されます。

メインスイッチを「C」にすると、連続撮影できます。連写速度は3コマ/秒（［**低速**］）と5コマ/秒（［**高速**］）から選べます。連写速度を選ぶには、メニュー画面で［**連写**］（3.5）を選び、サブメニューで希望の連写速度を選びます。

メモ

- フラッシュを使って連続撮影することはできません。フラッシュが発光するときは1枚撮影になります。
- セルフタイマー（58ページ）を使って連続撮影することはできません。セルフタイマー作動時は1枚撮影になります。
- 1/60秒より遅いシャッタースピードでは［高速］で連続撮影できません。また、1/4秒より遅いシャッタースピードでは［低速］で連続撮影できません。
- 連続撮影したときは、撮影枚数にかかわらず、PLAYモード（26ページ）でも**オートレビュー**モード（26ページ）でも、最後に撮影した画像が表示されます。十字ボタンの右/左ボタン（1.24/1.27）を押すと、連続撮影したうちの別の画像を表示できます。

撮影モード/再生モードを選ぶ

電源を入れたあとや（前ページ）、シャッターボタン（1.8、27ページ）を押してスタンバイモード（33ページ）から復帰させたあとは、常に撮影モード（40ページ）になります。

画像を再生するには、次の2つのモードのいずれかに切り換えます。

1. **PLAY**モード　時間の制限なく画像を表示します。
2. **オートレビュー**モード　撮影直後の画像を自動表示します。

PLAYモード（時間の制限なく画像を表示する）

PLAYモードにするには、**PLAY**ボタン（1.16）を押します。

- 最後に撮影した画像が画像情報（13ページ）とともに表示されます。メモリーカードにも内蔵メモリーにも画像が記録されていない場合は、「**表示できる画像がありません**」というメッセージが表示されます。

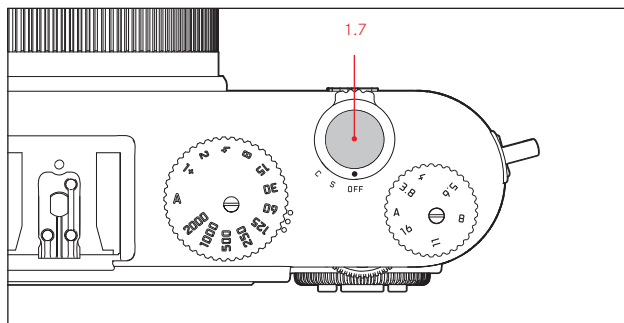
メモ

PLAYボタンを押しながら本機の電源を入れると、直接**PLAY**モードになります。

オートレビューモード（撮影直後の画像を自動表示する）
撮影直後に画像が自動的に液晶モニターに表示されます。思ったとおりに撮影できたか、あるいはもう一度撮影し直す必要があるか、素早く簡単にチェックできます。
オートレビューモードでは、画像が表示される時間を設定できます。また、画像が表示されたままにすることもできます。さらに、ヒストグラムの同時表示/非表示も設定できます。

オートレビューモードを設定するには、メニュー画面（14、28ページ）で［**オートレビュー**］（3.23）を選んでから、最初のサブメニューで［**表示時間**］または［**ヒストグラム**］を選び、次のサブメニューで希望の設定内容を選びます。

メモ
連続撮影（24ページ）またはオートブラケット撮影（52ページ）したときは、どちらの再生モードでも、最後に撮影した画像が表示されます。また、撮影した複数の画像すべてがバッファメモリーからメモリーカードまたは内蔵メモリーに転送されていないときは、メモリーカードまたは内蔵メモリーに最後に記録された画像が表示されます。表示された画像を別の画像に切り換える方法など、画像再生の各機能については、「画像を再生する（再生モード）」（62ページ〜）をご覧ください。

シャッターボタン

シャッターボタン（1.7）の作動ポイントは2段階です。
シャッターボタンを半押しする（最初の作動ポイントまで浅く押し込む）と、オートフォーカスが作動する（設定時のみ）とともに、測光が行われて露出が決まります。また、露出やピントを固定できます（46ページ）。スタンバイモード（33ページ）の状態でシャッターボタンを半押しすると、スタンバイモードが解除され、液晶モニターが点灯します（34ページ）。
シャッターボタンを全押しする（深く押し込む）と撮影できます。シャッターボタンを全押しする前に、ピントや露出を確認してください。測光モードについては46ページを、オートフォーカスについては41ページを、測光モードやオートフォーカスの画面表示については10ページをご覧ください。

メモ

- 電子音やシャッター音の有無とそれぞれの音量をメニュー項目で設定できます（33ページ）。
- シャッターボタンはやさしく押してください。いきなり強く押すと手ぶれの原因となります。

メニュー設定

機能の選択や設定は、主にメニュー画面で行います。メニューの操作には、設定ダイヤル (1.22) と十字ボタン (1.23/1.24/1.26/1.27) を使います。設定ホイール (1.20) を使うと、メニュー画面を素早くスクロールできます。

メモ

メニュー設定は、液晶モニター (1.29、34ページ) の画面でも電子ビューファインダー (別売、72ページ) の画面でも行えます。

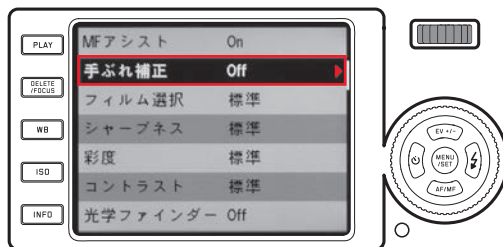
メニュー画面を表示する

MENU/SETボタン (1.25) を押します。

- メニュー画面が表示されます。現在選択されているメニュー項目は、赤枠と白黒反転でハイライト表示されます。
  右端に赤い矢印がある項目は、サブメニュー (選択できる設定内容の一覧) がある項目です。
  画面右端には黄色のスクロールバーが表示されており、現在選択されている項目がメニュー全体のどの位置にあるかを確認できます。

メニュー項目を選ぶ

設定ダイヤル (1.22) を回す (時計回り：下に移動、反時計回り：上に移動) か、十字ボタンの上/下ボタン (1.23/1.26) を押します。

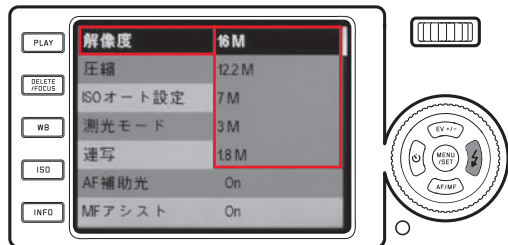
設定ホイール (1.20) を使うと、表示されているメニュー項目すべてをまとめてスクロールできます。右に回すと下に、左に回すと上にスクロールできます。

メニュー項目のサブメニューを表示する

十字ボタンの右ボタン（1.24）を押します。

- サブメニューが赤枠で囲まれて表示されます。現在選択されている設定内容は、白黒反転でハイライト表示されます。

サブメニューで設定内容を選ぶ

設定ダイヤル（1.22）を回す（時計回り：下に移動、反時計回り：上に移動）か、十字ボタンの上/下ボタン（1.23/1.26）を押します。

- ハイライト表示を上下に移動して、設定内容を選びます。

設定内容を決定する

MENU/SETボタン（1.25）を押します。

- サブメニューが消えます。決定した設定内容がメニュー項目の右に表示されます。

設定内容を変更せずにサブメニューを閉じる

- 十字ボタンの左ボタン（1.27）を押すとサブメニューが消えます。設定内容は変更されず、元の設定内容がメニュー項目の右に表示されます。

メニュー画面を終了する

次のいずれかの操作を行います。

- MENU/SETボタン（1.25）を押します。
  - 撮影モードに切り換わります（40ページ）。
- シャッターボタン（1.8）を押します。
  - 撮影モードに切り換わります（40ページ）。
- PLAYボタン（1.16）を押します。
  - 再生モードに切り換わります（45ページ）。

メモ

- その他の設定内容により、設定できなくなるメニュー項目があります。その場合は、そのメニュー項目を選ぶと文字がグレーで表示されます。
- メニュー画面を表示したときは、最後に設定したメニュー項目がハイライト表示されます。
- メニュー項目によっては、サブメニューが2階層になっています。その場合は、サブメニューの右端に赤い矢印が表示されます。
  第2階層のサブメニューの表示や設定も、第1階層のサブメニューと同じ手順で行います。
  第2階層のサブメニューは、メニュー画面の一部に重なるのではなく、単独で画面に表示されます。

- 次のボタンを押して表示されるメニューで設定を行うときも、メニュー画面で設定を行うときと操作はほぼ同じです。
  - **ISO** ボタン（1.13）：ISO感度の設定
  - **WB** ボタン（1.14）：ホワイトバランスの設定
  - **DELETE/FOCUS** ボタン（1.15）：画像の消去（再生モード時）、AFモードの選択（撮影モード時）
  - **EV+/–** 十字ボタン（1.23）：露出補正、オートブラケット撮影、フラッシュ発光量調整の各設定
  - ⚡ 十字ボタン（1.24）：フラッシュモードの選択
  - **AF/MF** 十字ボタン（1.26）：フォーカスモードの選択
  - ⏲ 十字ボタン（1.27）：セルフタイマーの設定

ただし、メニュー画面での操作とは異なり、設定内容はシャッターボタン（1.8）を半押ししても決定できます。
詳しくは、各項目のページをご覧ください。

カメラに関する基本設定

表示言語
表示言語は、ドイツ語、日本語、英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、繁体中国語、簡体中国語、ロシア語、韓国語から選べます。

表示言語を設定するには、メニュー画面で［**Language**］（3.31）を選び、サブメニューで希望の言語を選びます。

日付
日付は2009年から2099年まで設定できます。

日付を設定するには、メニュー画面で［**日付**］（3.27）を選んでから、最初のサブメニューで［**設定**］または［**順序**］を選び、次のサブメニューで日付や日付の表示順序を設定します。

［**設定**］のサブメニューでは、十字ボタンの右/左ボタン（1.24/1.27）で項目（年、月、日）を選び、設定ダイヤル（1.22）または十字ボタンの上/下ボタン（1.23/1.26）で日付を合わせます。

時間
時間を設定するには、メニュー画面で［**時間**］（3.28）を選んでから、最初のサブメニューで［**設定**］または［**表示**］を選び、次のサブメニューで時間や時間の表示形式を設定します。

［**設定**］のサブメニューでは、十字ボタンの右/左ボタン（1.24/1.27）で時（h）または分（m）を選び、設定ダイヤル（1.22）または十字ボタンの上/下ボタン（1.23/1.26）で時間を合わせます。

［**表示**］のサブメニューでは、時間の表示形式を24時間と12時間から選べます。

メモ
日付と時間の設定は、バッテリーが入っていなかったり、バッテリーが消耗してしまったりしても、内蔵のバックアップ電池により約2日保存されます。約2日経過して設定が失われてしまった場合は、本ページの手順で再設定してください。

オートパワーオフ
バッテリーの消耗を防ぐために、設定した時間が経過すると本機が自動的にスタンバイモードに移行する機能です。

オートパワーオフを設定するには、メニュー画面で［**オートパワーオフ**］（3.24）を選び、サブメニューで希望の設定内容を選びます。

メモ
スタンバイモードは、シャッターボタン（1.8）を押すか、メインスイッチ（1.7）で一度電源を切って入れ直すと解除されます。

電子音/シャッター音
ボタン操作時などに電子音が鳴るように設定できます。音量は2段階で調整できます。電子音やシャッター音をオフにして、静かに操作したり撮影したりすることもできます。

シャッター音の設定
メニュー画面で［**シャッター音音量**］（3.29）を選び、サブメニューで［**オフ**］、［**低**］、［**高**］から設定内容を選びます。

電子音/メモリーカードの空き容量がなくなったときの警告音の設定
メニュー画面で［**電子音**］（3.30）を選んでから、最初のサブメニューで［**音量**］を選び、次のサブメニューで［**Off**］、［**低**］、［**高**］から設定内容を選びます。
ボタンの操作音とメモリーカードの空き容量がなくなったときの警告音のオン/オフは、サブメニューの［**クリック音**］と［**SDカード警告**］で個別に設定できます。

液晶モニター/外付けファインダー（別売）

メモ

液晶モニターと電子ビューファインダー ライカ EVF 2（別売、72ページ）の画面には、同じ情報が表示されます。ライカ EVF 2の表示切換ボタンを押すと、液晶モニターの表示とファインダー画面の表示を切り換えることができます。
どちらの画面が表示されるかは、次の操作を行ったあとでも記憶されます。
- 本機がオートパワーオフでスタンバイモードになったとき
- メインスイッチで本機の電源を切ったとき
- バッテリーを取り出したとき

ライカ EVF 2についての詳細は、ライカ EVF 2の取扱説明書をご覧ください。

画面の表示情報を切り換える

INFO ボタン（1.12）を押すと、画面に表示される情報を切り換えることができます。

表示情報

INFOボタンを押すたびに、表示情報が次の順番で繰り返し切り換わります。

撮影モード

a. 全情報表示（10ページ）
　ヒストグラム（47ページ）も表示されます（設定時のみ）。
b. 基本情報表示（10ページ）＋ AFフレーム/測光ポイント
c. 上記「b.」の情報＋グリッド
　ヒストグラム（47ページ）も表示されます（設定時のみ）。
d. 画面オフ
　液晶モニターの上のLEDランプ（1.28）が点灯します。

再生モード

a. 全情報表示（13ページ）
　ヒストグラム（47ページ）も表示されます（設定時のみ）。
b. 基本情報表示（13ページ）

メモ

- ［光学ファインダー］を［On］に設定しているときのみ、撮影モードで「d.」に切り換わります。詳しくは次ページをご覧ください。
- 撮影モードで表示画面が「a.」、「b.」、「c.」のときにINFOボタンを1秒以上押し続けると、5つの重要な設定内容が表示されます（2.1.26、12ページ）。

電子ビューファインダー（別売）使用時に液晶モニターに画像を表示する

電子ビューファインダー ライカ EVF 2（別売）使用時でもPLAYボタン（1.16）を押すと液晶モニターに画像を表示するように設定できます。

この機能を設定するには、メニュー画面で［**常に液晶で再生**］（3.19）を選び、サブメニューで設定内容を選びます。［**On**］を選ぶと液晶モニターに画像が表示され、［**Off**］を選ぶとファインダー画面に画像が表示されます。ライカ EVF 2についての詳細は、ライカ EVF 2の取扱説明書をご覧ください。

メモ

この機能はPLAYモードでのみ使用できます。**オートレビュー**モード（26ページ）を設定しているときは、ライカ EVF 2使用時に［**常に液晶で再生**］を［On］に設定しても、撮影直後の画像は自動的にファインダー画面に表示されます。

ブライトフレームファインダー（別売）使用時に液晶モニターを消灯する
ブライトフレームファインダー（別売、72ページ）使用時に液晶モニターの表示が気になるときは、液晶モニターが消灯するように設定できます。

この機能を設定するには、メニュー画面で［**光学ファインダー**］（3.13）を選び、サブメニューで設定内容を選びます。［**On**］を選ぶと液晶モニターが消灯し、［**Off**］を選ぶと液晶モニターが点灯したままになります。

メモ
［光学ファインダー］を［On］に設定しても、再生モードやメニュー画面に切り換えると液晶モニターは点灯します。

液晶モニター/電子ビューファインダー（別売）の明るさと色を調整する
周囲の明るさなどに合わせて、液晶モニターや電子ビューファインダー ライカ EVF 2（別売）が見やすくなるように、それぞれの画面の明るさと色を調整できます。

明るさを調整する
メニュー画面で［**液晶明るさ**］（3.15）または［**EVF明るさ**］（3.16）を選び、サブメニューで明るさを5段階から選びます。

色を調整する
1. メニュー画面で［**液晶色調整**］（3.17）または［**EVF色調整**］（3.18）を選びます。
   - 画像と十字線が表示されます。十字線の縦横の両端には、イエロー、グリーン、ブルー、マゼンタの色が表示されており、それぞれの色の方向に調整できることを示しています。
2. 十字ボタンで画面上の小さなドット（初期設定では十字の中央）を移動して、希望の色に調整します。
   - ドットを移動すると画面の色も変わります。

画面のオートパワーオフ
設定時間が経過すると液晶モニターが自動的に消灯するように設定できます。電子ビューファインダー ライカ EVF 2（別売）使用時は、ファインダー画面が自動的に消灯します。バッテリーの消耗を防ぐだけでなく、液晶モニターの発熱を抑える効果もあります。

この機能を設定するには、メニュー画面で［**オート液晶オフ**］（3.25）を選び、サブメニューで希望の設定時間を選びます。

JPEG画像の解像度

JPEG形式（次項）で画像データを記録するときの解像度（画素数）を4種類から選べます。画像の用途やメモリーカード容量に合わせて最適な解像度を選んでください。

JPEG画像の解像度を選ぶには、メニュー画面で［**解像度**］（3.1）を選び、サブメニューで希望の解像度を選びます。

メモ

RAW画像（DNG形式）は、JPEG画像の解像度にかかわらず、常に同じ解像度で記録されます。

記録形式/圧縮率

JPEG画像の圧縮率を［**JPG fine**］と［**JPG super fine**］の2種類から選べます。JPEG画像はRAW画像（［**DNG**］）と同時に記録することもできます。

記録形式/圧縮率を選ぶには、メニュー画面で［**圧縮**］（3.2）を選び、サブメニューで希望の記録形式/圧縮率を選びます。

メモ

圧縮画像のファイルサイズは被写体によって大きく異なります。画面に表示される撮影可能枚数と撮影可能時間は目安としてお使いください。

ホワイトバランス

ホワイトバランスはデジタルカメラ特有の機能で、光源に応じて自然な色合いで撮影できるようにするためのものです。被写体の中の特定の色を白く写し出すように設定し、この白に基づいて色合いを調整します。本機では、ホワイトバランスの設定方法を、プリセット（5種類）、オート、手動設定（2件保存可能）、色温度設定から選べます。また、撮影状況や撮影意図に合わせて、各設定を微調整することもできます。

プリセットを選ぶ場合

WBボタン（1.14）を押し、表示されたメニューで［**AWB**］（オート）、［ ］（白熱灯）、［ ］（太陽光）、［ ］（フラッシュ）、［ ］（曇天）、［ ］（日陰）から希望のプリセットを選びます。

手動で設定する場合

WBボタン（1.14）を押し、表示されたメニューで［SET ］または［SET ］を選びます。
画面の中央に黄色い枠が表示され、その下に「MENU/SETボタンを押してください」というメッセージが表示されます。白またはグレーの無地の被写体を黄色い枠いっぱいに入れて映し、MENU/SETボタン（1.23）を押します。
ホワイトバランスの設定が保存されます。［ ］または［ ］を選ぶと、保存したホワイトバランスを呼び出して撮影できます。

色温度を直接設定する場合

WBボタン（1.14）を押し、表示されたメニューで［SET K］を選びます。
画面の中央に色温度が表示されます。設定ダイヤル（1.22）または十字ボタンの上/下ボタン（1.23/1.26）で色温度を設定し、MENU/SETボタン（1.25）を押します。
色温度の設定が保存されます。［K］を選ぶと、保存した色温度を呼び出して撮影できます。

ホワイトバランスの微調整

設定したホワイトバランスは、すべて微調整できます。ホワイトバランスを微調整するには、WBボタン（1.4）を押し、表示されたメニューで十字ボタンの右ボタン（1.24）を押して［**WB微調整**］（赤い矢印が付いた項目）を選びます。
微調整用の十字線が表示されます。十字線の縦横の両端に表示された色を目安に、十字ボタンで小さなドットを移動して希望の色合いになるように微調整し、MENU/SETボタン（1.25）を押します。
微調整したホワイトバランスの設定が保存されます。微調整したホワイトバランスの設定は、元の設定とともに保存されます。

ISO感度
同じ明るさでも、ISO感度の設定値によって設定できるシャッタースピードと絞り値は変わってきます。ISO感度を上げれば、シャッタースピードを速くして動きのある被写体の一瞬をとらえたり、絞りを絞り込んで被写界深度を深くしたりできます。ただし、ISO感度を上げるとノイズが目立つようになります。

ISO感度を設定するには、**ISO**ボタン（1.13）を押し、表示されたメニューで［**ISOオート**］（自動設定）または数値を選びます。

［**ISOオート**］を選ぶと、自動設定されるシャッタースピードの下限を設定できるので、動いている被写体がぶれて写らないようにしたいときなどに便利です。また、自動設定されるISO感度の上限も設定できるので、ノイズを抑えたいときなどに効果的です。

これらの機能を設定するには、メニュー画面で［**ISOオート設定**］（3.3）を選んでから、最初のサブメニューで［**最長シャッター**］（自動設定されるシャッタースピードの下限）または［**最大ISO**］（自動設定されるISO感度の上限）を選び、次のサブメニューで希望の設定値を選びます。

メモ
［**ISOオート**］設定時に自動設定されたISO感度（2.1.3）は、液晶モニターが消灯していても（35ページ）、シャッターボタン（1.8、27ページ）を半押しすると表示されます。

画質を決める要素 - シャープネス/彩度/コントラスト
デジタル写真には数多くのメリットがありますが、その1つが、画像の質を決める大切な要素を簡単に調整できることです。本機では、画質の決め手となる次の3つの大切な要素を撮影前に調整できます。

- シャープネス：美しく撮影するには、少なくとも主要被写体だけには正確にピントを合わせてシャープに描き出さなければなりません。画像がシャープな印象になるかどうかは、輪郭がシャープであるかどうか、すなわち画像の輪郭部において明暗の境界部分がどれだけ小さいかで決まるといっていいでしょう。シャープネス調整とは、この境界部分の大小を調整することです。
- 彩度：画像の色合いが“淡い”パステルカラーのように見えるか、“鮮やか”でカラフルに見えるかを決める要素です。画像の印象は、光の状況や天候（晴れか曇りか）によって大きく違ってきますが、彩度によっても明らかに変わってきます。
- コントラスト：明るい部分と暗い部分の差のことで、画像が“単調”であるか“鮮明”であるかを決める要素です。コントラスト調整とは、明るい部分をより明るくして暗い部分をより暗くするなど、明暗の差に強弱をつけることです。

これらの3つの要素を、［**標準**］（変更なし）と高低2段階の5段階で個別に調整できます。

これらの要素を調整するには、メニュー画面で［**シャープネス**］（3.10）、［**彩度**］（3.11）、［**コントラスト**］（3.12）から調整したい要素を選び、サブメニューで希望の調整レベルを選びます。

メモ
これらの要素の調整はJPEG画像にのみ適用されます。RAW画像（DNG）には適用されません。

色調

シャープネス、彩度、コントラスト（前ページ）に加えて、画像の色調も選べます。［**標準**］、［**Vivid**］（彩度が高め）、［**Natural**］（彩度とコントラストがやや低め）、［**白黒Natural**］、［**白黒High　Contrast**］（コントラストが高めのモノクロ）の5種類の標準的なスタイルから選べます。

色調を選ぶには、メニュー画面で［**フィルム選択**］（3.9）を選び、サブメニューで希望の色調を選びます。

メモ

- ［フィルム選択］はJPEG画像にのみ適用されます。RAW画像（DNG）には適用されません。
- ［フィルム選択］の設定内容は、画質を決める要素やノイズ低減を同時に設定して、さらに調整できます。その場合は、［フィルム選択］の設定内容の横に*マークが表示されます（例：［**標準***］）。

ピントを合わせる

ピントを合わせる方法（フォーカスモード）を自動（オートフォーカス）と手動（マニュアルフォーカス）の2種類から選べます。ピントの合う範囲は、どちらの方法も30cm～無限遠です。

フォーカスモードを選ぶ

AF/MF 十字ボタン（1.26）を押し、表示されたメニューで［AF］（オートフォーカス）または［MF］（マニュアルフォーカス）からピント合わせの方法を選び、シャッターボタン（1.8）またはMENU/SETボタン（1.25）を押して決定します。

- 次の情報が画面に表示されます。
  - 現在選択されているフォーカスモード（2.1.25）
  - AFフレームの白枠（1点AFモード、11点AFモード、スポットAFモード時、10、42、43ページ）

オートフォーカス
シャッターボタン（1.8）を半押しすると、ピント合わせが自動的に行われ、ピントが固定されます（67ページ）。
- ピントが合って固定されると、次のようになってお知らせします。
  - AFフレームが緑色に変わります。
  - 11点AFモード（43ページ）時は、最大9点の緑色のAFフレームが表示されます。
  - フォーカス/露出ステータスLED（1.19）が点灯します。
  - 電子音が鳴ります（設定時のみ、43ページ）。

メモ
- ピントと同時に露出も固定されます（46ページ）。
- 次のような撮影状況では、ピントが合いません。
  - 被写体がピントの合う範囲外にあるとき
  - 被写体の輝度が低いとき（次項）
  ピントが合わない場合は、次のようになってお知らせします。
  - AFフレームが赤色に変わります。
  - 11点AFモード時は、赤色のAFフレームが1点だけ表示されます。
  - フォーカス/露出ステータスLED（1.19）が点滅します。

重要
ピントが合わなくても、シャッターボタン（1.8）を全押しして撮影できます。

AF補助光
内蔵のAF補助光ランプ（1.2）を使うと、暗い場所での撮影時にオートフォーカスでピントを合わせやすくなります。AF補助光設定時は、シャッターボタン（1.8）を半押しすると、自動的にAF補助光が発光します。

AF補助光を使うには、メニュー画面で［**AF補助光**］（3.6）を選び、サブメニューで「On」を選びます。

メモ
AF補助光の有効距離は約4mです。暗い場所では、これより遠い場所にある被写体にはオートフォーカスでピントを合わせることはできません。

AFモード
オートフォーカスでピントを合わせる方法を4種類から選べます。被写体や撮影状況や構図に合わせて、最適なモードを選んでください。

AFモードを選ぶには、**DELETE/FOCUS**ボタン（1.15）を押し、表示されたメニューで希望のAFモードを選び、シャッターボタン（1.8）または**MENU/SET**ボタン（1.25）を押して決定します。

1点AFモード
画面の中央に表示されるAFフレーム（2.1.9）でピントを合わせます。スポットAFモードよりはAFフレームが広いため、比較的狭い範囲に簡単にピントを合わせることができるのが特長です。
1点AFモードでは、AFフレームの位置を変えることもできます。被写体が構図の中央にないときなどに便利です。

AFフレームの位置を変えるには、**DELETE/FOCUS**ボタン（1.15）を1秒以上押します。
- AFフレームだけが画面に表示されます。AFフレームの上下左右にある赤い矢印は、各方向にAFフレームを移動できることを示しています。それ以上その方向に移動できなくなると、赤い矢印が消えます。

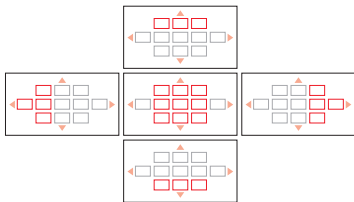
十字ボタンでAFフレームを移動します。**INFO**ボタン（1.12）を押すと、AFフレームが中央に戻ります。位置を移動したら、シャッターボタン（1.8）を押して決定します。

11点AFモード

11点のAFフレームを利用してピントを合わせます。AFフレームはグループ化されており、被写体の広い範囲をカバーできるので、スナップ撮影などでピントを合わせやすくなっています。すべてのAFフレームで測距を行いますが、最も近い被写体に自動的にピントを合わせます。
また、11点のAFフレームの上下左右のいずれかのグループだけを選んで、そのグループでピントを合わせることもできます。

AFフレームのグループを選ぶには、**DELETE/FOCUS**ボタン（1.15）を1秒以上押します。

- 11点のAFフレームだけが画面に表示されます。初期設定では、中央にある9点のAFフレームのグループが赤で表示されます。AFフレームの上下左右にある赤い矢印は、各方向のグループを選べることを示しています。

十字ボタンで希望のグループを選びます。中央のグループのほか、上下の3点と左右の4点のグループから選べます。グループを選んだら、シャッターボタン（1.8）または**DELETE/FOCUS**ボタンを押して決定します。

スポットAFモード

画面の中央に表示される小さなAFフレームでピントを合わせます。ごく狭い部分にピントを合わせることができるのが特長です。例えば、ポートレート撮影で人物の目にピントを合わせて美しく撮影できます。
スポットAFモードでは、AFフレームの位置を変えることもできます。被写体が構図の中央にないときなどに便利です。

AFフレームの位置を変えるには、**DELETE/FOCUS**ボタン（1.15）を1秒以上押します。

- AFフレームだけが画面に表示されます。AFフレームの上下左右にある赤い矢印は、各方向にAFフレームを移動できることを示しています。それ以上その方向に移動できなくなると、赤い矢印が消えます。

十字ボタンでAFフレームを移動します。**INFO**ボタン（1.12）を押すと、AFフレームが中央に戻ります。位置を移動したら、シャッターボタン（1.8）または**DELETE/FOCUS**ボタンを押して決定します。

顔認識AFモード
人の顔を自動的に認識して、最も近い顔にピントを合わせます。顔を認識できない場合は、11点AFモードに切り換わります。

マニュアルフォーカス
被写体や撮影状況によっては、オートフォーカス（前項）よりもマニュアルフォーカスを使う方が便利なことがあります。例えば、同じ被写体を何度も撮影する必要があり、AFロック（50ページ）を何度も行うには手間がかかる場合や、風景撮影などでピントを無限遠に固定したい場合や、暗い場所でオートフォーカスが使えなかったり遅くなったりする場合などは、マニュアルフォーカスが適しています。

マニュアルフォーカスに設定するには、**AF/MF** 十字ボタン（1.24）を押し、表示されたメニューで［**MF**］を選び、シャッターボタン（1.8）または**MENU/SET**ボタン（1.25）を押して決定します。

ピントを合わせるには、設定ホイール（1.20）を回して、主要被写体がはっきり見えるようにします。
- 設定ホイールを回すと、距離目盛（2.1.20）が表示されます。緑色のバーは被写界深度を示しています。被写界深度は、撮影距離と絞り値により変化します（「測光/露出」、46ページ）。距離目盛は、ピント合わせの操作をしないまま約5秒経過すると消えます。

設定ホイールを回す速さによって、ピント合わせの動作が異なります。
- 速く回す：　ピントを大まかに合わせる
- ゆっくり回す：　ピントを厳密に合わせる

これらを組み合わせることで、素早く正確にピントを合わせることができます。

MFアシスト（次項）を使うと、ピント合わせをより正確に行うことができます。

メモ

- **DELETE/FOCUS**ボタン（1.15）を1秒以上押すと、手動で合わせたピントを固定できます。同じ被写体を繰り返し撮影するときなどに、ピントを合わせ直す必要がないので便利です。
- **DELETE/FOCUS**ボタンを押して固定したピントは、本機の電源を切っても記憶されています（47ページ）。ほぼ同じ距離にある被写体を長時間にわたって撮影するときなどに、本機の電源を切ってバッテリーの消耗を防げるので便利です。

MFアシスト

マニュアルフォーカス時には、被写体の中央部を拡大表示するMFアシストが使えます。ピントの状態をしっかりと確認でき、より正確にピントを合わせることができます。

MFアシストを使うには、メニュー画面で［**MFアシスト**］（3.7）を選び、サブメニューで「On」を選びます。

- サブメニューで［On］を選んで設定ホイール（1.20）を回すと、被写体の中央部を約6倍に拡大した拡大表示枠が距離目盛の上に表示されます。拡大表示枠は、ピント合わせの操作をしないまま約5秒経過すると消えます。

メモ

DELETE/FOCUSボタン（1.15）を押しても拡大表示枠を表示できます。合わせたピントを誤ってずらしてしまうことなくピントを再確認できます。
また、十字ボタンで拡大表示枠を移動することもできます。ピントを合わせたい被写体が構図の中央にないときや、特定の部分を通常の大きさで確認できるようにしておきたいときなどに便利です。
INFO ボタン（1.12）を押すと、拡大表示枠が中央に戻ります。

測光/露出

測光モード

被写体の明るさを測る方法（測光モード）を3種類から選べます。周囲の光の状況、撮影シーン、撮影スタイル、表現意図などに応じて、最適なモードを選んでください。

測光モードを選ぶには、メニュー画面で［**測光モード**］（3.4）を選び、サブメニューで希望の測光モードを選びます。

マルチパターン測光 –

被写体の輝度差を自動分析し、あらかじめ設定された輝度分布パターンと比較することにより、主要被写体の位置を割り出し、最適な露出を算出します。
撮影が難しい光の状況でも、適正露出で素早く簡単に撮影できます。プログラムAEモード（48ページ）と組み合わせて使うのに適しています。

中央部重点測光 –

画面の中央部に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光する方式です。
AEロック（50ページ）と組み合わせると、全体的な明るさを考慮しながら、被写体の特定の部分に露出を合わせて撮影できます。

スポット測光 – ·

画面中央の緑色のスポット測光ポイント（2.1.10）で示されるごく狭い範囲だけを測光する方式です。
被写体の一部分だけを測光して適正露出を決定します。マニュアル露出モード（50ページ）と組み合わせて使うのが効果的です。
例えば、逆光時は主要被写体が露出アンダーにならないように明るい背景をバックにしないようにする必要がありますが、ごく狭い範囲だけを測光するスポット測光に設定すれば、背景が明るくても主要被写体に露出を合わせて撮影できます。

ヒストグラム

ヒストグラム（2.1.13、2.2.8）とは、画像の輝度分布を示すグラフです。横軸は明るさを黒（左端）〜灰色〜白（右端）で表し、縦軸はそれぞれの明るさの画総数を表します。

撮影の前後に画像自体の印象とともにこのグラフを見ることで、露出状況を素早く簡単にチェックできます。手動で露出を決めるとき（50ページ）にも、自動露出モード（「P」、「T」、「A」、48、49ページ）時の露出を確認したいときにも便利です。

ヒストグラムは撮影モードと再生モード（40、62ページ）のどちらでも表示できます。

撮影モードでのヒストグラムの表示/非表示を設定するには、メニュー画面で［**撮影ヒストグラム**］（3.20）を選び、サブメニューで希望の設定内容を選びます。

メモ

フラッシュ撮影時は、フラッシュ発光前の露出状況を表すため、実際に撮影した画像の露出状況とは異なります。

再生モードでのヒストグラムの表示/非表示を設定するには、メニュー画面で［**再生ヒストグラム**］（3.21）を選び、サブメニューで希望の設定内容を選びます。クリップ機能のある設定内容を選ぶと、白とびや黒つぶれが発生している部分も表示されます。

メモ

- 拡大表示時や一覧表示時（63ページ）は、ヒストグラムを表示できません。
- 撮影モードのヒストグラムは露出の傾向であり、正確な画素数を示しているわけではありません。目安としてお使いください。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは多少異なることがあります。

露出モード

露出モードを4種類から選べます。被写体や撮影スタイルに合わせて、最適なモードを選んでください。

露出モードの切り換えとシャッタースピード/絞り値の設定は、シャッタースピードダイヤル（1.10）と絞りダイヤル（1.9）で行います。

シャッタースピードの設定範囲は1/2000〜30秒、絞り値の設定範囲はF2.8〜F16です。どちらのダイヤルにも手動設定用のクリックストップが付いており、シャッタースピードは1段ステップで、絞り値は1/3段ステップで設定できます。「A」はシャッタースピードや絞り値を自動設定するときに使います。

1秒より遅いシャッタースピードに設定するには、シャッタースピードダイヤルを「1+」にしてから、設定ダイヤル（1.22）を回します。

- シャッタースピードダイヤルを「1+」にすると、（2.1.15）が表示されます。

メモ

被写体の明るさによっては、画面の画像の明るさと実際に撮影した画像の明るさが異なることがあります。特に、暗い被写体を遅いシャッタースピードで撮影するときは、画面の画像がかなり暗く見えても、適正露出にすれば実際の画像は明るく写ります。

プログラムAEモード（P）
カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に設定するモードです。露出はすべてカメラ任せなので、素早く撮影できます。

プログラムAEモードに設定するには、シャッタースピードダイヤルと絞りダイヤルを［A］にします。
- 「P」（2.1.1）が表示されます。

プログラムAEモードで撮影する
1. シャッターボタン（1.8）を半押しします。
- シャッタースピード（2.1.17）と絞り値（2.1.20）が白色で表示されます。また、プログラムシフトが使えることを示すマーク（2.1.15、次項）が表示されます。

本機で設定できるシャッタースピードと絞り値の範囲では露出アンダーまたは露出オーバーになる場合は、シャッタースピードと絞り値が赤色で表示されます。

2. シャッターボタンを全押しして撮影します。

自動設定されたシャッタースピードと絞り値は、もう一度シャッターボタンを半押しすれば変更できます。

プログラムシフト
自動設定されたシャッタースピードと絞り値の組み合わせを自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。素早く適正露出を得てから、撮影意図に合わせて撮影できます。
シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えても、全体的な露出（明るさ）は変わりません。なお、適正露出を維持するために、シフトできる範囲は限定されます。
プログラムシフトは設定ダイヤル（1.22）で行います。例えば、スポーツ撮影でシャッタースピードを速くしたいときは、設定ダイヤルを左（反時計回り）に回します。風景撮影などで被写界深度を深く（絞り値を大きく）するためにシャッタースピードが遅くなっても構わないというときは、設定ダイヤルを右（時計回り）に回します。
- プログラムシフトすると、設定ダイヤル使用表示（2.1.15）が表示されます。また、変更したシャッタースピードと絞り値の組み合わせの横には、カメラが自動設定した組み合わせと区別できるように、*マーク（2.1.16）が表示されます。
- プログラムシフトしないまま12秒経過すると、露出機構がオフになり、プログラムシフトも解除され、カメラが自動設定した組み合わせに戻ります。
- 撮影するとプログラムシフトは解除されます。誤って同じ設定で再度撮影してしまうのを防ぐことができます。

シャッタースピード優先AEモード（T）

手動で設定したシャッタースピードに応じて、適正露出になるようにカメラが絞り値を自動的に設定します。動きのある被写体の撮影では、設定するシャッタースピードに応じて被写体の動きがどのように表現されるかが決まります。そのため、動きのある被写体の撮影に適したモードです。
シャッタースピードを速くすると、動きのある被写体の一瞬を鮮明にとらえることができます。シャッタースピードを遅くすると、被写体の動きを強調することができます。

シャッタースピード優先AEモードに設定するには、絞りダイヤル（1.9）を「A」にして、シャッタースピードダイヤル（1.10）を希望のシャッタースピードに設定します。

- 「T」（2.1.1）が表示されます。また、手動設定したシャッタースピード（2.1.17）が白色で表示されます。

シャッタースピード優先AEモードで撮影する

1. シャッターボタン（1.8）を半押しします。
   - 自動設定された絞り値（2.1.20）が白色で表示されます。
     手動設定したシャッタースピードと本機で設定できる絞り値の範囲では露出アンダーまたは露出オーバーになる場合は、シャッタースピードと絞り値が赤色で表示されます。
2. シャッターボタンを全押しして撮影します。

シャッターボタンを全押しする前にシャッタースピードを変えれば、絞り値も変えることができます。

絞り優先AEモード（A）

手動で設定した絞り値に応じて、適正露出になるようにカメラがシャッタースピードを自動的に設定します。被写界深度は絞り値によって変わるため、被写界深度を活用して撮影したいときに適しています。
絞り値を小さくする（絞りを開く）と被写界深度を浅くできるので、例えばポートレート撮影で不要な背景をぼかして人物を浮かび上がらせる表現が可能です。絞り値を大きくする（絞りを絞る）と被写界深度を深くできるので、風景撮影で前景から背景まで全体にピントを合わせて撮影できます。

絞り優先AEモードに設定するには、シャッタースピードダイヤル（1.10）を「A」にして、絞りダイヤル（1.9）を希望の絞り値に設定します。

- 「A」（2.1.1）が表示されます。また、手動設定した絞り値（2.1.20）が白色で表示されます。

絞り優先AEモードで撮影する

1. シャッターボタン（1.8）を半押しします。
   - 自動設定されたシャッタースピード（2.1.17）が白色で表示されます。
     手動設定した絞り値と本機で設定できるシャッタースピードの範囲では露出アンダーまたは露出オーバーになる場合は、シャッタースピードと絞り値が赤色で表示されます。
2. シャッターボタンを全押しして撮影します。

シャッターボタンを全押しする前に絞り値を変えれば、シャッタースピードも変えることができます。

マニュアル露出モード（M）

シャッタースピードと絞り値を自分で決めて撮影します。特殊な効果を与えたいときや、異なる構図を同じ露出で撮影したいときに使います。

マニュアル露出モードに設定するには、シャッタースピードダイヤル（1.10）と絞りダイヤル（1.9）をそれぞれ希望する数値に設定します。

- 「M」（2.1.1）が表示されます。また、設定したシャッタースピード（2.1.17）と絞り値（2.1.20）が白色で表示されます。

マニュアル露出モードで撮影する

1. シャッターボタン（1.8）を半押しします。

- 露出レベル（2.1.18）が表示されます。表示範囲は1/3EVステップで±2EVです（EVはExposure Valueの略で、露出値の単位です）。
  ±2EVの範囲内で適正露出に設定すると、EV目盛の1つが赤色に変わります。±2EVの範囲を超えて設定すると、露出レベルの端にある「–」または「+」の目盛が赤色に変わります。

適正露出にするには、中央の目盛が赤色に変わるようにシャッタースピードや絞り値を調整します。

2. シャッターボタンを全押しして撮影します。

AF/AEロック

構図上の理由から主要被写体を中央に配置しない方が好ましい場合もあります。しかし、最初から主要被写体を中央以外に配置すると、主要被写体ではなく近くの被写体や遠くの被写体にピントや露出が合ってしまう場合がよくあります。ピントについては1点AFモードやスポットAFモード（42、43ページ）のときに、露出については露出モードが「P」、「T」、「A」（48、49ページ）のときに、このようになってしまうことがあります。その結果、メインの被写体にピントが合わなかったり、メインの被写体が露出オーバーまたは露出アンダーになったりしてしまいます。
そのような場合に効果的なのが、AF/AEロックです。AF/AEロックを使うと、まず主要被写体にピントや露出を合わせてから、主要被写体を中央以外に配置した構図に変えて撮影できます。

AF/AEロックを使って撮影する

1. ピントや露出を合わせたい部分にAFフレーム（2.1.8/2.1.9）や緑色のスポット測光ポイント（2.1.10）を重ね、シャッターボタンを半押しします（67ページ）。露出とピントが固定され、AFフレームが緑色に変わり、フォーカス/露出ステータスLED（1.19）が点灯します。
2. シャッターボタンを半押ししたまま、本機を動かして構図を決めます。
3. シャッターボタンを全押しして撮影します。

メモ

ピントと露出を固定したあとに、シャッターボタンから指を離してもう一度シャッターボタンを半押しすると、ピントと露出を固定し直すことができます。

露出補正

露出値は標準的な被写体の明るさ、すなわち平均的な光の反射率をもつ被写体の明るさを基準に算出されます。そのため、真っ白な雪や真っ黒な蒸気機関車が構図の大部分を占めるなど、光の反射率が平均的ではない被写体を同じ露出で何枚も撮影するときは、1枚撮影するごとにAEロックを使うよりも、露出補正を行って撮影した方が便利なことがあります。

露出を補正する

1. EV+/- 十字ボタン (1.23) を1回押します。
   - 露出補正のメニューが表示されます。
2. 十字ボタンの右/左ボタン (1.24/1.27) で露出補正値を設定します。1/3EVステップで±3EVの範囲で補正できます。
   - 露出補正値の変化に応じて画面の明るさが変わるので、効果が確認できます。
3. シャッターボタン (1.8) または**MENU/SET**ボタン (1.25) を押して設定を決定します。
   - 露出補正マークと露出補正値 (2.1.21) が表示されます。

メモ

- マニュアル露出モード (39ページ) では露出補正できません。
- **EV+/-** 十字ボタンは、オートブラケット撮影 (次ページ) やフラッシュ発光量調整 (50ページ) のメニューを表示するときにも使います。ボタンを押すたびに、各メニューが順番に繰り返し表示されます。
- 露出補正を解除するには、メニュー画面で「**±0**」を選んでください (手順2.) 。撮影したり本機の電源を切ったりしても解除されません。

オートブラケット撮影

被写体の多くは明暗差が大きく、非常に明るい部分と非常に暗い部分を含んでいます。そのため、どの部分に露出を合わせるかによって撮影結果が大きく異なってきます。そのような場合は、自動的に露出を変えながら3枚の画像を撮影し、それらの3枚から最適な露出の画像を選ぶことができるオートブラケット機能を使うと便利です。

オートブラケット撮影する

1. **EV+/−** 十字ボタン（1.23）を2回押します。
   - オートブラケット撮影のメニューが表示されます。
2. 十字ボタンの右/左ボタン（1.24/1.27）でステップ幅を設定します。1/3EVステップで±3EVの範囲で設定できます。
3. シャッターボタン（1.8）または**MENU/SET**ボタン（1.25）を押して設定を決定します。
   - オートブラケット撮影マーク（2.1.23）が表示されます。

メモ

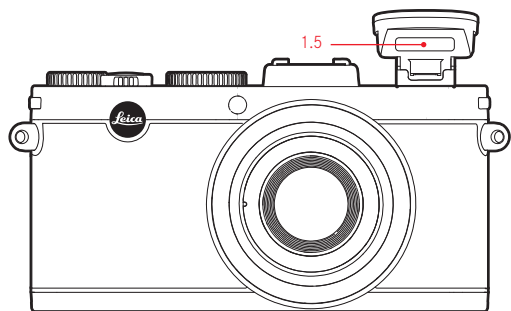
- シャッタースピードと絞り値の組み合わせによっては、設定できる範囲が限定されることがあります。
- **EV+/−** 十字ボタンは、露出補正（前ページ）やフラッシュ発光量調整（57ページ）のメニューを表示するときにも使います。ボタンを押すたびに、各メニューが順番に繰り返し表示されます。
- オートブラケット撮影を解除するには、メニュー画面で「**Off**」を選んでください（手順2.）。撮影したり本機の電源を切ったりしても解除されません。

フラッシュを使って撮影する

内蔵フラッシュを使って撮影する

本機はリトラクタブル式のフラッシュ（1.5）を装備しています。フラッシュ撮影するときは、フラッシュをポップアップさせます。

フラッシュをポップアップさせるには、フラッシュポップアップレバー（1.17）を右にスライドさせます。バネの作用でフラッシュが上がり、フラッシュの電源が入ります。フラッシュを収納するには、「カチッ」と音がするまで軽く押し下げます。フラッシュを使わないときは必ず収納しておいてください。

- フラッシュをポップアップさせると、現在設定されているフラッシュモード（次項）のマーク（2.1.2）が白字で表示されます。赤字で数秒間点滅しているときは、充電中ですので発光できません。

本機のフラッシュ撮影では、実際の撮影前にプリ発光を行います。メイン発光の直前にプリ発光を行い、その反射光を用いて必要な発光量を測定します。

メモ

連続撮影（24ページ）やオートブラケット撮影（52ページ）ではフラッシュは使えません。フラッシュがポップアップした状態でも、フラッシュモードのマークは表示されず、発光もされません。

フラッシュモード

ϟ 十字ボタン（1.24）を押します。

フラッシュモードメニューが表示されます。

設定ダイヤル（1.22）を回すか、十字ボタンの上/下ボタン（1.23/1.26）を押すか、ϟ 十字ボタンを押して、希望のフラッシュモードを選びます。

シャッターボタン（1.8）または**MENU/SET**ボタン（1.25）を押して設定を決定します。

- 選んだフラッシュモードのマーク（2.1.2）が表示されます。

オートモード – ϟA

通常のフラッシュ撮影に使うモードです。暗い場所や夕暮れ時や曇りの日など、光量の少ない状況でシャッタースピードを遅くして手持ち撮影すると、画像がぶれてしまうことがあります。そのような状況で、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減オートモード – ⚡A◉
赤目現象は、ポートレート撮影などでフラッシュ光が被写体の目の角膜に反射して起きる現象です。したがって、赤目を防ぐ最適な方法は、フラッシュ光が被写体の目に正面から直接入らないようにすることです。赤目現象は、暗い場所で目の瞳孔が開いているときに起きやすくなります。そこで、例えば屋内で撮影するときは、照明を明るくして被写体の瞳孔を閉じ気味にしておけば、赤目現象を軽減できます。
赤目軽減オートモードでは、メイン発光の直前に予備発光し、カメラを見ている被写体の瞳孔を閉じさせることで、赤目現象を軽減します。

強制発光モード – ⚡
逆光時に主要被写体が画面の一部しか占めていなかったり陰になったりしているときや、直射日光下などでコントラストを抑えたいとき（日中シンクロ）に選びます。
オートモードとほぼ同じ発光方式ですが、周囲の明るさにかかわらず、撮影ごとに必ず発光します。
発光量は周囲の明るさに応じて調整されます。暗い場所では発光量はオートモードと同じですが、明るくなるほど発光量は少なくなります（最大で-1 2/3EV）。明るい場所では、陰になっている前景や逆光の被写体に補助光としてフラッシュ光を当てて、明るさのバランスを整えて撮影できます。

赤目軽減強制発光モード – ⚡◉
強制発光モードに赤目軽減機能が備わったモードです。赤目を軽減しながら強制発光したいときに選びます。

スローシンクロモード – ⚡S
前景にフラッシュ光を当てながら暗い背景も明るくして、全体をバランスよく撮影できます。他のフラッシュモードでは、画像がぶれるのを防ぐために1/30秒より遅いシャッタースピードには設定されません。そのため、フラッシュ光が届かない背景は露出アンダーになりがちです。スローシンクロモードでは、シャッタースピードがさらに遅く（30秒まで）設定されるため、背景も自然な明るさにして撮影できます。

メモ
自動設定されるシャッタースピードの下限は、［**ISOオート設定**］（3.3、38ページ）で設定できます。
また、［**ISOオート設定**］の設定によっては、ISO感度を上げることが優先的に行われるため、シャッタースピードが遅く設定されないことがあります。

赤目軽減スローシンクロモード – ⚡S◉
スローシンクロモードに赤目軽減機能が備わったモードです。赤目を軽減しながらスローシンクロモードを使いたいときに選びます。

スタジオモード – ⚡Studio

スレーブ機能（カメラ側のフラッシュ発光に同調して発光する機能）付きのスタジオ用ストロボなどの外部フラッシュを使って撮影するためのモードです。通常のフラッシュ撮影では使えません。

メモ

⚡S、⚡S◉、⚡Studioモードでシャッタースピードを遅くして撮影するときは、手ぶれを防ぐために、三脚を使うなどして本機を固定することをおすすめします。また、ISO感度（38ページ）を上げればシャッタースピードを速めに設定できるので、手ブレを抑えることができます。

フラッシュ光の最大到達距離

フラッシュ光が届く範囲は、絞り値やISO感度によって異なります。上手に撮影するには、被写体がフラッシュの届く範囲内にあることを確認することが大切です。本機で設定できるISO感度とフラッシュ光の最大到達距離は次のとおりです。

ISO感度	最大到達距離[1]
ISO **100**	約2.0m
ISO **200**	約2.8m
ISO **400**	約4.0m
ISO **800**	約5.6m
ISO **1600**	約8.0m
ISO **3200**	約11m
ISO **6400**	約16m
ISO **12500**	約22m

[1] F2.8時。他の絞り値では、これらの距離より短くなります。

フラッシュ発光のタイミング

フラッシュ撮影時の光源は、定常光とフラッシュ光の2つです。フラッシュが光るのはほんの一瞬だけなので、フラッシュ光だけに照らされた部分や、主にフラッシュ光に照らされた部分は、ピントさえ合っていれば、ぶれずにきわめてシャープに写ります。一方、定常光に照らされている部分や、自らが光を発している背景などの部分は、同じ写真の中でもシャープさが異なって写ります。これらの部分がどの程度ぶれて写るかは、次の2つの要素によって決まります。

1. シャッタースピード（撮像素子がこれらの部分を光として受け止める時間）
2. 撮影中に被写体やカメラ自体が動く速さ

シャッタースピードが遅いほど、または被写体やカメラ自体の動きが速いほど、まるで多重露光したかのようにシャープさが大きく異なって写ります。
通常のフラッシュ撮影では、露光の始め、すなわちシャッターが開き切った直後にフラッシュが発光するので、写真が不自然になることがあります。例えば、走行中の自動車の場合は、テールランプの光跡が自動車を追い越しているように写ります。
本機では、フラッシュが発光するタイミングを、露光の始まり（通常のタイミング）と露光の終わり（シャッターが閉じる直前）から選べます。露光の終わりに発光すれば、被写体の動きの最後の瞬間をシャープに写し出すことができます。つまり、自動車の後にテールランプの光跡が続く自然な写真になります。露光の終わりに発光することで、被写体の動きをより自然に強調して写すことができます。

フラッシュ発光のタイミングを選ぶには、メニュー画面で［**フラッシュ発光**］（3.14）を選び、サブメニューで希望のタイミングを選びます。

メモ
シャッタースピードが速いときは、動きの速い被写体以外では効果はほとんど得られません。

- フラッシュ発光量調整を解除するには、メニュー画面で「**±0**」を選んでください（手順2.）。撮影したり本機の電源を切ったりしても解除されません。

フラッシュ発光量調整

定常光による露出補正とは別に、フラッシュの調光補正が行えます。例えば、夕暮れ時の屋外で、周囲の光が生み出す雰囲気を維持したまま、前景の人物の顔を明るく写すことができます。

1. **EV+/-** 十字ボタン（1.23）を3回押します。
   - フラッシュ発光量調整のメニューが表示されます。
2. 十字ボタンの右/左ボタン（1.24/1.27）で調光補正を行います。1/3EVステップで±3EVの範囲で調整できます。
3. シャッターボタン（1.8）または**MENU/SET**ボタン（1.25）を押して設定を決定します。
   - フラッシュ発光量調整マークと調整値（2.1.14）が表示されます。

メモ
- 調光補正を行いますと、フラッシュ光の最大到達距離が大きく変わります。＋側に補正すると最大到達距離は短くなり、－側では長くなります。
- **EV+/-**　十字ボタンは、露出補正（51ページ）やオートブラケット撮影（52ページ）のメニューを表示するときにも使います。ボタンを押すたびに、各メニューが順番に繰り返し表示されます。

外部フラッシュを使って撮影する

内蔵フラッシュよりも発光量が大きい外部フラッシュを使うこともできます。外部フラッシュはISOに準拠したアクセサリーシュー（1.11）に取り付けます。外部フラッシュにはライカ SF 24D（73ページ）をおすすめします。
予備発光を行うフラッシュモード（⚡A◉/⚡◉/⚡S◉）設定時に外部フラッシュを取り付けると、それぞれ予備発光を行わないフラッシュモード（⚡A/⚡/⚡S）に切り換わり、画面の表示も切り換わります。外部フラッシュを取り外すと、設定していたフラッシュモードに戻ります。
ライカSF 24D使用時は、**TTL/GNC**モードを選ぶとカメラ側で自動制御されます。露出モードが「**A**」のときは、被写体が平均的な明るさを上回ったり下回ったりすると、適正露出が得られないことがあります。露出モードが「**M**」のときは、カメラ側で設定した絞り値や撮影距離に合わせて発光量を減らす必要があります。

メモ
- 外部フラッシュを取り付けたときは、必ず外部フラッシュの電源を入れてください。適正露出が得られなかったり、本機が誤表示を起こしたりすることがあります。
- 外部フラッシュと電子ビューファインダー ライカ EVF 2（別売、72ページ）を同時に使うことはできません。

セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーを2秒または12秒に設定して撮影できます。グループ撮影時に自分も一緒に写ったり、シャッターボタンを押すときの手ぶれを防いだりしたいときに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。

セルフタイマーの設定

1. ⏱ 十字ボタン（1.27）を押します。
   - セルフタイマーメニューが表示されます。
2. 設定ダイヤル（1.22）を回すか、十字ボタンの上/下ボタン（1.23/1.26）を押すか、十字ボタンを押して、希望の設定内容を選びます。
   - セルフタイマーのマーク（2.2.11）が表示されます。
3. シャッターボタン（1.8）または**MENU/SET**ボタン（1.25）を押して設定を決定します。

セルフタイマーでの撮影

シャッターボタン（1.8、47ページ）を全押しして撮影します。

- 設定時間により、シャッターが切れるまでセルフタイマーLED（1.2）が次のように点滅します。
  - 12秒に設定したときは、最初の10秒はゆっくり（1秒に1回）点滅し、残りの2秒は速く（1秒に2回）点滅します。
  - 2秒に設定したときは、速く（1秒に2回）点滅します。
- 残り時間のカウントダウンのメッセージ（2.1.11）が画面に表示されます。

メモ

- セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマーをもう一度最初から作動させることができます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、メインスイッチで別の設定（1枚撮影または連続撮影）を選ぶか、本機の電源を切ります。
- セルフタイマーを使って連続撮影（24ページ）したりオートブラケット撮影（52ページ）したりすることはできません。セルフタイマー作動時は1枚撮影になります。

メモリーカードをフォーマット（初期化）する

通常はすでに使用しているメモリーカードをフォーマットする必要はありません。フォーマットされていないメモリーカードを初めて使うときは、フォーマットが必要になります。その場合は、フォーマットを促すメッセージが表示されます。
残余データ（画像データに付随する情報データ）が一定量になるとメモリーカード容量の一部を占めることがありますので、定期的にフォーマットし直すことをおすすめします。
メモリーカードをフォーマットするには、メニュー画面で［**フォーマット**］（3.32）を選び、サブメニューで［はい］を選びます。

メモ

- メモリーカード内のデータは、本機でフォーマットしても、ディレクトリのみが消去されるだけで、完全には消去されません。そのため、特定のソフトを使えば、データを復旧することができる場合があります。新しいデータを保存して上書きした場合にのみ、データは完全に消去されます。
- メモリーカード内の大切な画像データは、パソコンのハードディスクなど、安全な大容量記憶装置にできるだけ早めに取り込むようにしてください。
- メモリーカードのフォーマット中は、本機の電源を切らないでください。
- パソコンなどの他の機器でフォーマットしたメモリーカードは、本機でフォーマットし直してください。
- メモリーカードをフォーマットできない場合は、お買い上げの販売店またはライカデジタルサポートセンター（80ページ）までお問い合わせください。
- メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカード内のプロテクトされている画像（66ページ）も消去されます。
- メモリーカードが入っていない場合は、内蔵メモリーがフォーマットされます。

色空間

デジタル画像では、色を正しく再現する条件がさまざまな用途ごとに大きく異なるため、数種類の色空間が開発されています。sRGB（RGBは赤、緑、青を表します）は、一般的な印刷にふさわしい色空間です。Adobe RGBは、カラー補正などの高度な技術を用いる専門的な画像処理に最適で、商業印刷などで広く一般に使われています。

色空間を選ぶには、メニュー画面で［**色空間**］（3.26）を選び、サブメニューで希望の色空間を選びます。

メモ

- 大型ラボ、ミニラボ、ネットプリントサービスで画像をプリントするときは、［**sRGB**］に設定してください。
- ［**Adobe RGB**］は、カラー処理技術が十分に整った環境で画像処理する場合にのみ設定することをおすすめします。

内蔵メモリーからメモリーカードに画像をコピーする

本機は容量110MBの内蔵メモリーを搭載しているため、メモリーカードが入っていなくても、画像を内蔵メモリーに記録できます。内蔵メモリーに記録した画像は、メモリーカードにコピーすることができます。

メモリーカードに画像をコピーするには、メニュー画面で［**コピー**］（3.35）を選び、サブメニューで［はい］を選びます。

新しいフォルダを作成する

撮影した画像は順番にファイル番号が付けられて1つのフォルダに保存されていきますが、途中で新しいフォルダを作成して、それ以降に撮影した画像を作成したフォルダに保存することができます。画像をグループ分けして効率よく管理したいときなどに便利です。

新しいフォルダを作成するには、メニュー画面で［**番号リセット**］（3.22）を選び、サブメニューで［はい］を選びます

メモ

- ファイル名（例：L1002345.jpg）は、「**100**」と「**2345**」の2つの数字のグループで構成されています。最初の3桁の数字はフォルダ番号で、次の4桁の数字はファイル番号です。これにより新しいフォルダを作成して画像をパソコンに取り込んでも、同じファイル名で表示されることはありません。
- フォルダ番号を100に戻すには、メモリーカードあるいは内蔵メモリーをフォーマットしてから、上の手順で新しいフォルダを作成します。フォルダ番号を100に戻すと、ファイル番号も0001に戻ります。

好みの設定を保存する（カスタム設定）

メニュー項目の設定を組み合わせて、「カスタム」としてカメラに保存しておくことができます。同じ状況で、あるいは同じ被写体を、同じ設定で素早く撮影したいときなどに便利です。保存できるカスタムは3つです。カスタム設定では、すべての設定を工場出荷時の状態（初期設定）に戻すこともできます。

カスタムを保存する

1. 保存したい項目の設定を行います。
2. メニュー画面で［**カスタム設定**］（3.38）を選びます。
3. サブメニューで［**カスタム保存**］を選びます。
4. 次のサブメニューで保存先のカスタムを選びます。
5. **MENU/SET** ボタン（1.25）を押して保存します。

カスタムを呼び出す

メニュー画面で［**カスタム設定**］を選び、サブメニューで呼び出したいカスタムを選びます。

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す

メニュー画面で［**カスタム設定**］を選び、サブメニューで［**工場出荷設定**］を選びます。

メモ

［**工場出荷設定**］を選んでも、時間と日付は工場出荷時の状態には戻りません。

手ぶれ補正

暗い場所で撮影するときなどは、ISO感度を［**ISOオート**］に設定していても（38ページ）、シャッタースピードが遅すぎるために画像がぶれてしまうことがあります。手ぶれ補正機能を使うと、遅いシャッタースピードでもぶれを抑えて撮影できます。

手ぶれ補正機能を使うには、メニュー画面で［**手ぶれ補正**］（3.8）を選び、サブメニューで「On」を選びます。

メモ

- 手ぶれ補正機能では、速いシャッタースピードと遅いシャッタースピードの2枚の画像を連続して自動的に撮影します（シャッター音が2回します）。これら2枚の画像をデジタル処理して1枚の画像にします。
- 2回目のシャッター音が聞こえるまではカメラを動かさないでください。
- 撮影を2回行うため、静止している被写体以外では効果は得られません。
- シャッタースピードが1/4〜1/30秒で、ISO感度が1600以下のときのみ効果が得られます。

画像を再生する（再生モード）

再生モードに切り換えるS

撮影モードまたはメニュー画面が表示されている状態でPLAYボタン（1.16）を押すと、再生モードに切り換えることができます。

また、撮影直後に画像を自動的に表示することもできます。

1. メニュー画面で［**オートレビュー**］（3.23）を選びます。
2. サブメニューで［**表示時間**］を選びます。
3. 次のサブメニューで希望の設定内容または表示時間を選びます。
4. ヒストグラム（47ページ）の同時表示/非表示選ぶときは、最初のサブメニューに戻ります。
5. 最初のサブメニューで［**ヒストグラム**］を選びます。
6. 次のサブメニューで希望の設定内容を選びます。
   - 最後に撮影した画像が画像情報（13ページ）とともに表示されます。
     メモリーカードにも内蔵メモリーにも画像が記録されていない場合は、「**表示できる画像がありません**」というメッセージが表示されます。

メモ

- メモリーカードが入っている（22ページ）ときは、メモリーカードに記録されている画像だけを表示できます。内蔵メモリーに記録されている画像を表示するには、メモリーカードを取り出してください。
- 本機はDCF（Design Rule for Camera File System）に対応しています。
- 本機以外のカメラで撮影した画像は、本機で再生できないことがあります。
- 表示される画像の画質が通常より悪かったり、画像が表示されずにファイル名だけが表示されたりすることがあります。

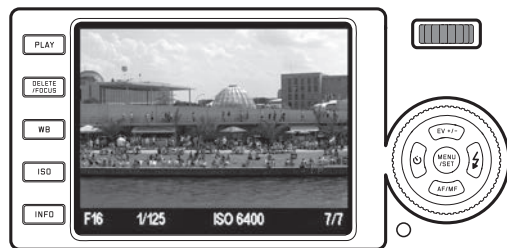
表示画像を切り換える

表示画像を切り換えるには、次の2つのいずれかの操作を行います。

- 十字ボタンの右/左ボタン（1.24/1.27）を押します。
- 設定ホイール（1.20）を回します。

十字ボタンの左ボタンを押すか設定ホイールを左に回すと小さい番号の画像が表示され、十字ボタンの右ボタンを押すか設定ホイールを右に回すと大きい番号の画像が表示されます。十字ボタンを押し続けると、1秒間に約2枚の速さで画像を連続表示します。

最大番号の画像の次は最小番号の画像に戻り、最小番号の画像の次は最大番号の画像に戻ります。どちらの方向に画像を切り換えても、すべての画像を表示できます。

- 画像と同時に表示されるフォルダ番号/ファイル番号も、画像の切り換えに応じて変わります。

画像を拡大表示する/16枚の画像を一覧表示する

画像を最大16倍に拡大表示したり、16枚の画像を縮小して一覧表示したりできます。拡大表示は画像を入念にチェックしたいときなどに、一覧表示は探している画像を素早く見つけたいときなどに便利です。

画像を拡大表示するには、設定ダイヤル（1.22）を時計回りに回します。
画像を一覧表示するには、設定ダイヤルを反時計回りに回します。

- 拡大表示では、現在のおおよその表示位置を示す拡大表示位置（2.2.21）が表示されます。また、拡大表示時に設定ホイールを回すと、表示画像を切り換えることができます（2.2.20）。
  一覧表示では、一覧表示に切り換える前に1枚表示されていた画像が赤枠でハイライト表示されます。

メモ

- 拡大率が高くなるほど、表示画素数が少なくなるため、画像が粗くなります。
- 本機以外のカメラで撮影した画像は、拡大表示できないことがあります。
- 拡大表示時に設定ホイールを回して表示画像を切り換えると、次の画像も拡大表示されます。
- 拡大表示時はヒストグラム（47ページ）を同時表示できません。

一覧表示で画像を選ぶときも、1枚表示時と同じ操作を行います。ただし、十字ボタンを押し続けると、非常に速い速度で画像が選ばれます。

- 選んだ画像は赤枠でハイライト表示されます。

選んだ画像を1枚表示に戻すには、設定ダイヤルを時計回りに回すか、**MENU/SET**ボタン（1.25）を押します。

拡大表示位置を移動する

拡大表示時に表示位置を移動することができます。画像のどの部分でも細部を拡大してチェックできるので便利です。

十字ボタン（1.23/1.24/1.26/1.27）を押した方向に表示位置が移動します。

- 拡大表示位置（2.2.21）で現在のおおよその表示位置を確認できます。

画像を消去する

メモリーカードや内蔵メモリーに記録された画像を消去できます。画像を別の記録メディアに保存したあとや、画像が不要になったとき、メモリーカードの空き容量を増やしたいときなどに便利です。
1枚ずつ消去するだけでなく、すべての画像を一度に消去することもできます。

メモ

- メモリーカードが入っている（22ページ）ときは、メモリーカードに記録されている画像だけを消去できます。内蔵メモリーに記録されている画像を消去するには、メモリーカードを取り出してください。
- プロテクトされている画像を消去するときは、プロテクトを解除してください（次ページ）。
- 画像を消去すると、画像番号/メモリーカード内の総画像数（2.2.9）に表示される残りの画像の番号が変わります。例えば、3番の画像を消去すると、4番だった画像が3番になり、5番だった画像が4番になります。フォルダ内のファイル番号（2.2.6）は変わりません。

重要

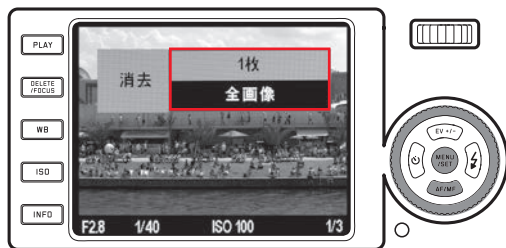
一度消去した画像は元に戻せません。
画像を消去するには、**DELETE/FOCUS**ボタン（1.15）を押します。
- 消去メニューが表示されます。

以降の操作は、1枚ずつ消去するか全画像を消去するかで異なります。

1枚ずつ消去する

1. 消去メニューで［1枚］を選び、**MENU/SET**ボタン（1.25）を押します。
   - 表示されている画像が消去され、次の画像が表示されます。
     表示されている画像がプロテクトされている（次ページ）場合は、画像は消去されず、「**この画像はプロテクトされています**」というメッセージが数秒間表示されます。

全画像を消去する

1. ［**全画像**］を選び、**MENU/SET**ボタン（1.25）を押します。
   - サブメニューが表示されます。
2. 消去するときは［はい］を、消去をやめるときは［いいえ］選び、**MENU/SET**ボタンを押します。
   - ［はい］を選ぶと、「**表示できる画像がありません**」というメッセージが表示されます。
     プロテクトされている画像（次項）があるときは、「**プロテクトされた画像は消去されませんでした**」というメッセージが数秒間表示され、プロテクトされている中の最小番号の画像が表示されます。
     ［いいえ］を選ぶと、消去の操作を行う前に表示されていた画像が表示されます。

メモ

消去メニューを表示してから消去の操作を中止するには、もう一度**DELETE/FOCUS** ボタンを押します。

画像をプロテクトする/プロテクトを解除する

メモリーカードや内蔵メモリーに記録された画像を誤って消去しないように、プロテクトする（保護する）ことができます。

1. メニュー画面で［**プロテクト**］（3.34）を選びます。
   - サブメニューと画像が表示されます。表示された画像がプロテクトされているかいないかによって、［**プロテクト**］または［**プロテクト解除**］のサブメニューが表示されます。

2. プロテクトするときは［**プロテクト**］を、プロテクトを解除するときは［**プロテクト解除**］を選びます。
3. **MENU/SET**ボタン（1.25）を押して決定します。
   - プロテクトされた画像にはプロテクトマーク（2.2.4）が表示されます。

メモ
- メモリーカードが入っている（22ページ）ときは、メモリーカードに記録されている画像にのみプロテクト/プロテクト解除を設定できます。内蔵メモリーに記録されている画像にプロテクト/プロテクト解除を設定するには、メモリーカードを取り出してください。
- サブメニューで［**終了**］を選ぶと、再生モードに戻ります。
- ［プロテクト］または［プロテクト解除］のサブメニューが表示されているときに十字ボタンの右/左ボタン（1.24/1.27）を押すと、表示画像を切り換えることができます。
- メモリーカードをフォーマットする（59ページ）と、プロテクトされている画像も消去されます。
- プロテクトされている画像を消去しようとする（前項）と、メッセージが表示されます。プロテクトされている画像を消去するときは、本項の手順に従ってプロテクトを解除してください。
- 本機で設定したプロテクトは、本機以外では無効になります。
- メモリーカードにも、画像を誤って消去することがないように、プロテクト機能が装備されています。メモリーカードで画像をプロテクトするには、書込み防止スイッチを「LOCK」の方向にスライドさせてください（22ページ）。

縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示する

画像は通常、撮影時のカメラの向きと同じように画面に表示されます。つまり、横位置で撮影した画像はそのまま横向きに表示されます。しかし、縦位置で撮影した画像も、カメラを横位置に戻すと横向きに表示されてしまうため、見にくくなってしまいます。

本機では、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して縦向きに表示することができます。

この機能を設定するには、メニュー画面で［**回転表示**］（3.32）を選び、サブメニューで希望の設定内容を選びます。

［**On**］を選ぶと、縦位置で撮影した画像が自動的に縦向きに表示されます。

メモ

- 縦位置で撮影した画像が縦向きに表示されるときは、通常よりも小さく表示されます。
- オートレビューモード（26ページ）では機能しません。

画像をHDMI対応機器で再生する

本機で撮影した画像をHDMI対応のテレビ、プロジェクター、モニターで再生して、大画面・高画質で鑑賞することができます。出力解像度は［**1080i**］、［**720p**］、［**480p**］から選べます。

出力解像度を設定する

メニュー画面で［**HDMI**］（3.33）を選び、サブメニューで希望の出力解像度を選びます。

HDMI対応機器と接続する/画像をHDMI対応機器で再生する

1. 本機とHDMI対応機器のHDMI端子にHDMIケーブルを接続します。
2. HDMI対応機器の電源を入れます。HDMI接続が自動的に検出されない場合は、HDMI入力に切り換えます。
3. 本機の電源を入れ、**PLAY**ボタン（1.16）を押し、再生モードにします。

メモ

- HDMI対応機器と接続するには、HDMIケーブル（別売）が必要です。本機の専用アクセサリーのHDMIケーブル（73ページ）をお使いください。
- 接続したHDMI対応機器の最大解像度が本機で設定した出力解像度よりも低い場合は、接続したHDMI対応機器の最大解像度に合わせて出力解像度が切り換わります。例えば、本機で設定した出力解像度が［**1080i**］で、接続した機器の最大解像度が**480p**の場合は、出力解像度が自動的に［**480p**］に切り換わります。
- HDMI対応機器の設定についての詳細は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機や電子ビューファインダー（別売）の画面に表示される情報は、接続したHDMI対応機器では表示されません。

画像をパソコンに取り込む

本機は次のOSに対応しています。

Microsoft®：Windows® XP、Windows Vista®、Windows® 7

Apple® Macintosh®：Mac® OS X（v 10.4以降）

本機は、パソコンに画像を取り込むインターフェースとしてUSB 2.0（High Speed）に対応しており、USB 2.0（High Speed）に対応したパソコンに画像を高速転送できます。本機とパソコンを直接接続して画像を取り込むには、パソコンがUSBポートを装備している必要があります。また、SD/SDHC/SDXCカードリーダーを使って画像を取り込むこともできます。

カメラを外付けドライブとして接続して画像を取り込む

Windows OSをお使いの場合

本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、本機は外付けドライブとしてパソコンに認識され、ドライブ名が割り当てられます。Windowsエクスプローラを使って画像を取り込んでください。

Mac OSをお使いの場合

本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、本機で使用中のメモリーカードが記録メディアとしてデスクトップに表示されます。「Finder」を使って画像を取り込んでください。

重要

- 付属のUSBケーブル（D）以外は使用しないでください。
- 画像取り込み中は、絶対にUSBケーブルを抜かないでください。本機、パソコン、メモリーカードの故障の原因となります。
- 画像取り込み中は、本機の電源を切ったり、バッテリーを取り出したりしないでください。また、バッテリーが消耗して本機の電源が切れることのないように注意してください。パソコンの故障の原因となります。画像取り込み中にバッテリーが消耗した場合は、INFO表示（2.1.26）とバッテリー残量表示（2.1.5）が点滅表示されます。画像の取り込みを中止してから電源を切り（24ページ）、バッテリーを充電してください（20ページ）。

カードリーダーを使って画像を取り込む

一般的なSD/SDHC/SDXCカードリーダー（UHS-I対応のものを含む）を使ってパソコンに画像を取り込むこともできます。USBポートを装備したパソコンならば、USB接続タイプのカードリーダーを使用できます。

メモ

本機は撮影時のカメラの向き（縦位置/横位置）を検知するセンサーを搭載しており、各画像にその情報が付加されます。画像を取り込んだパソコンにこの情報を読み取るソフトウェアがあれば、縦位置撮影した画像をパソコンのモニターで縦向きに表示できます。

DNG（RAW）データ

本機では、画質の劣化が少ないRAWファイル形式の標準フォーマットのDNG（デジタルネガティブ）形式で画像を記録できます。DNG形式で記録した画像は、汎用画像に変換するために非常に特殊なソフトウェアが必要になります。例えば、DNG形式で記録した画像を現像・処理するためのプロ仕様のソフトウェア「Adobe®Photoshop®Lightroom®」を使うと、デジタル画像のカラー処理に最適なアルゴリズムにより、ノイズを最低限に抑えた高精細画像に仕上げることができます。また、ホワイトバランスやシャープネスの調整、ノイズ除去、階調補正などの画像処理を行い、最高水準の画質にすることができます。

「Adobe®Photoshop®Lightroom®」は、ライカのホームページでユーザー登録されたあとに無償でダウンロードできます。詳しくは、付属のユーザー登録用のブックレットをご覧ください。

ADOBE® PHOTOSHOP® LIGHTROOM®をインストールする

「Adobe®Photoshop®Lightroom®」をインストールするには、パソコンをインターネットに接続する必要があります。また、メールアドレスも必要になります。

ダウンロード完了後、ライカからお知らせメールをお送りします。このお知らせメールに記載されたライセンスコードを入力して、ライセンス認証を行ってください。

動作環境

お使いになるバージョンにより、パソコン（Windows/Macintosh）の動作環境が異なります。ダウンロードする前にご確認ください。
Windowsでは、バージョンによってはデジタル署名が見つからないという警告が表示されることがありますが、この警告は無視してそのままインストールを続けてください。

ファームウェアをアップデートする

ライカは、製品の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能が電子的に制御されており、お買い上げのあとでも機能を追加したり不具合を改善したりできることがあります。
機能を追加したり不具合を改善したりするには、本機のファームウェアをアップデートします。ライカのホームページでは、最新のファームウェアを随時提供しています。最新のファームウェアをダウンロードして、本機のファームウェアをアップデートしてください。
本機のユーザー登録をされた方には、最新ファームウェアのリリース情報を随時お届けします。

アクセサリー

重要
本書またはライカが指定したアクセサリー以外は使用しないでください。

ライカX2用レザーケース
高品質な本革製のケース。カメラを縦に収納するタイプで、撮影時に取り出しやすく、持ち運びにも便利です。カラーはブラックです。ロングストラップ付き。
（商品コード 18755）

ライカX2用カメラプロテクター
高品質な本革製のカメラプロテクター。操作部が覆われないように配慮したデザインなので、カメラに装着したままでもスムーズに撮影できます。カラーはブラックです。
（商品コード 18731）

速写ケースX
この高級カメラケースは、植物なめしの牛革を素材とし、製品を保護しても直感的撮影を妨げないように作られています。つまりこのケースには、カメラを撮影準備が整った状態で収納できます。
（注文番号：18 754）

ライカX2用システムケース
ソフトながらも高品質な防水加工キャンバス地の小型システムケース。ハンドグリップや外付けファインダーやフラッシュユニットも収納できます。カラーはブラックです。
（商品コード 18757）

ライカX2用ハンドストラップ
カーブタイプの本革製ストラップ。カラーはブラックです。
（商品コード 18713）

外付けファインダー

ライカX1、X2用36 mmブライトフレームファインダー
高性能な外付け光学ファインダー。撮影距離が60cm〜無限遠と30〜60cmの2つの撮影範囲を示すブライトフレームが表示されます。
（商品コード 18707）

ライカX2用電子ビューファインダー EVF 2
視野率約100%、140万ドットのTTL電子ビューファインダー。光の加減で液晶モニターの画面が見にくい場合に便利で、正確かつ簡単に構図を決めることができます。画面には撮影に必要な情報がすべて表示されます。また、角度を調整できるので、ローアングルの撮影も快適に行えます。
（商品コード 18753）

外付けファインダーはいずれも、カメラ本体のアクセサリーシューに取り付けます。そのため、外部フラッシュユニットと同時に使うことはできません。外付けファインダー使用時の液晶モニターの機能・設定についての詳細は、34〜35ページをご覧ください。

ハンドグリップX
快適かつ確実にカメラをホールドできます。本体底面の三脚ねじ穴に取り付けます。
（商品コード 18712）

メモ
- ハンドグリップXは、Xシステム専用アクセサリーです。サイズや三脚ねじ穴の位置が異なるため、Xカメラ以外のカメラに取り付けることはできません。
- ハンドグリップXはカメラ本体底部に取り付けるため、バッテリーやメモリーカードを入れたり取り出したりするときは、ハンドグリップXを取り外す必要があります。
- ハンドグリップXを取り付ける際は、カメラ本体を傷つけないように、ハンドグリップXのガイドピンとカメラ本体のガイドピンの穴（1.34）をしっかりと合わせて取り付けてください。

フラッシュユニット
ライカ SF 24Dは、コンパクトなサイズと本機にマッチするデザインで、本機での使用に特に適しています。各種接点を取り付け脚に装備しています。操作もきわめて簡単です。
（商品コード 14444）

HDMIケーブル
画像再生用のHDMI対応機器に画像を高速転送できます。ケーブル長は約1.5mです。
（商品コード 14491）

スペア用アクセサリー	商品コード
レンズキャップ	423-097.001-024
アクセサリーシュー/ファインダーソケット用カバー	423-097.001-026
レザーキャリングストラップ	439-612.060-000
USBケーブル	423-089.003-022
リチウムイオンバッテリー BP-DC 8[1]	18 706
バッテリーケース	423-089.003-012
バッテリーチャージャー BC-DC 8（着脱式電源プラグ付き）	423-089.803-008
欧州向け電源プラグ	423-089.003-014
米国/日本向け電源プラグ	423-089.003-016
英国/香港向け電源プラグ	423-089.003-018
中国向け電源プラグ	423-089.003-020
韓国向け電源プラグ	423-089.003-028
オーストラリア向け電源プラグ	423-089.003-030

[1] イベントや旅先などでカメラを長時間使用するときは、予備のバッテリーを用意することをおすすめします。

一般的なご注意

強い磁気、静電気、電磁波を発生する機器（電磁調理器、電子レンジ、テレビ、パソコンのモニター、ゲーム機、携帯電話、無線機など）の近くで使用しないでください。

- テレビの上や近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 携帯電話の近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- スピーカーや大型の電動機などの強い磁気により、保存した画像データが破損することがあります。
- 電磁波の影響で正常に動作しなくなった場合は、バッテリーを入れ直してから電源を入れ直してください。
- 無線送信機や高圧線の近くで使用しないでください。磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、軽油、シンナー、アルコールは使用しないでください。
- 薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面の仕上げがはげたりすることがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触したままにしないでください。
- 浜辺などで使用するときは、内部に砂やほこりが入り込まないようにご注意ください。
- 砂やほこりが入り込むと、本機やメモリーカードの故障の原因となります。メモリーカードの出し入れの際は特にご注意ください。
- 雨の中や雪の中や浜辺などで使用するときは、内部に水滴が入り込まないようにご注意ください。
- 水滴が入り込むと、本機やメモリーカードが正常に動作しなくなるばかりか、修理が不可能になることがあります。
- 潮風があたった場合は、水道水で湿らせてよく絞った柔らかい布で拭き取ってください。その後、乾いた布でよく拭いてください。

重要

本書またはライカが指定したアクセサリー以外は使用しないでください。

液晶モニター

- 寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと、液晶モニターに結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- 寒い場所で電源を入れた場合、表示が通常より暗いことがあります。本機が温まるにつれて、明るさは元に戻ります。
- 液晶モニターは非常に精密度の高い技術で製造されており、総画素数約23万画素の99.995%以上が有効画素となっていますが、0.005%以下は黒い点になったり常時点灯したままになったりします。これは故障ではありません。また、これが画像表示に影響することはありません。

センサー（撮像素子）

宇宙線の影響により（飛行機内に持ち込んだ場合など）、画素に異常が生じることがあります。

結露

本機の内部や外部で結露が生じた場合は、電源を切って常温の場所に約1時間置いてください。常温になじんでくると水滴は自然に消えます。

お手入れ

汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、本機は清潔に保ってください。

カメラ

- 本機をお手入れする際は、乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを直接付けてから、乾いた布で拭き取ってください。
- 指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布では拭き取りにくい隅の汚れには、小さなブラシをお使いください。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しないときは、動作が鈍くなるのを防ぐために、約3ヶ月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、その他の操作部もすべて定期的に動かすことをおすすめします。

レンズ

- フロントレンズに付着したほこりは、柔らかいブラシを使って落としてください。汚れがひどい場合は、クリーナーなどを何も付けていない柔らかい清潔な布を使って、内側から外側に円を描くようにして丁寧に拭き取ってください。使用する布には、ケースなどに保管されているマイクロファイバークロスをおすすめします（写真用品や光学機器の専門店で購入できます）。40°Cの温水で手洗いできるような布をおすすめします。（ただし、柔軟剤の使用やアイロンがけは避けてください）。化学薬品が含まれているメガネ拭き用の布は、レンズを傷めることがありますので使用しないでください。
- 本機を使用しないときは、不用意に指紋を付けたり雨でぬらしたりするのを防ぐために、付属のレンズキャップを取り付けてください。

バッテリー

充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。

- 本機にバッテリーを入れたままにしておくと、電源を切った状態でも数週間後にはバッテリーが過放電状態になります。本機を長期間使用しないときは、本機からバッテリーを取り出してください。
- バッテリーを取り出して保管するときは、容量がある程度残った状態で保管してください。容量は液晶モニターのバッテリー残量表示（2.1.5/2.2.5）で確認できます。長期間保管するときは、過放電状態にさせないために、半年ごとに約15分間充電してください。
- バッテリーは0～35°Cの場所で充電してください。これ以外の温度では、まったく充電できないか、一度充電中になっても再度充電できない状態になります。

- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリーなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や端子部が破損しなかったか直ちに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。
- バッテリーには寿命があります。
- 破損したバッテリーは、正しくリサイクルするために、リサイクル協力店にお持ちください。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。

バッテリーチャージャー

- バッテリーチャージャーを無線受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。無線受信機から1m以上離れてお使いください。
- 充電中に音がすることがありますが、異常ではありません。
- バッテリーを充電していない場合でも、コンセントに差し込んだままにしておくと、微量の電力を使います。使用しないときはコンセントから抜いてください。
- 端子部は清潔に保ってください。また、絶対にショートさせないでください。

メモリーカード

- データの読み込み中や書き込み中は、メモリーカードを本機から取り出したり、本機の電源を切ったり、本機に振動を与えたりしないでください。
- メモリーカードを保管するときは、記録データを保護するために、帯電防止ケースに入れてください。
- 高温の場所、直射日光の当たる場所、磁気や静電気を発生する場所で保管しないでください。
- 落としたり曲げたりしないでください。破損して記録データが消失する原因となります。
- 本機を長期間使用しないときは、本機からメモリーカードを取り出してください。
- メモリーカードの裏にある端子部に触れないでください。また、汚れやほこりが付着したり、水でぬらしたりしないようにご注意ください。
- データ消去を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなりますので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。

保管

- 本機を長期間使用しないときは、次のことをおすすめします。
  a. 本機の電源を切る（24ページ）
  b. メモリーカードを取り出す（22ページ）
  c. バッテリーを取り出す（20ページ）：約3日後には日付と時間の設定が失われます（22ページ）。
- 本機の正面に強い太陽光が当たると、レンズがルーペと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用により本機の内部が破損しますので、レンズを保護せずに本機を強い太陽光に向けたまま放置しないでください。レンズキャップを取り付けて、日陰に置いたりケースに収納したりして、強い太陽光が当たらないようにしてください。
- 破損やほこりから保護するために、パッド入りのケースに保管することをおすすめします。
- 適度に風通しのよい乾いた場所で保管してください。高温・多湿の場所での保管は避けてください。湿気の多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- 収納しているケースが湿った場合は、湿気や湿気によって染み出てくるなめし剤によって本機が故障するのを防ぐために、本機をケースから取り出してください。
- 高温・多湿の熱帯地域で使用するときは、カビが発生するのを防ぐために、できるだけ多く日光や風に当ててください。密封ケースなどに保管するときは、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。
- カビや細菌が発生するのを防ぐために、レザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。
- 本機のシリアルナンバーは、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き写して保管してください。

テクニカルデータ

撮像素子　CMOSセンサー　サイズ：23.6×15.7mm（APS-Cサイズ）　総画素数：1650万画素　有効画素数：1620万画素　アスペクト比：3:2

記録画素数　JPEG：4928×3264画素（**16.2M**）、4288×2856画素（**12.2M**）、3264×2160画素（**7M**）、2144×1424画素（**3.1M**）、1632×1080画素（**1.8M**）　DNG：4944×3272画素

レンズ　ライカ エルマリート f2.8/24mm ASPH.（35mm判換算36mm相当）　レンズ構成：6群8枚　非球面レンズ

絞り　F2.8〜F16（1/3段ステップ）

最短撮影範囲　18×27cm（撮影距離30cm）

記録形式/圧縮率　**JPG super fine、JPG fine、DNG + JPG S. fine、DNG + JPG Fine**

記録媒体　SD/SDHC/SDXCメモリーカード、マルチメディアカード

内蔵メモリー　約110MB

ISO感度　オート（自動設定されるISO感度の上限および自動設定されるシャッタースピードの下限を設定可能）、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600、ISO 3200、ISO 6400、ISO 12800

ホワイトバランス　オート、プリセット（太陽光、曇天、白熱灯、日陰、フラッシュ）、手動設定（2件）、色温度設定　すべての設定で微調整が可能

フィルム選択（色調）　**標準、Vivid、Natural、白黒Natural、白黒High Contrast**

オートフォーカス　検出方式：撮像素子を用いたコントラスト検出方式　低照度時のAF補助光機能付き

フォーカス　合焦距離：30cm〜無限遠　フォーカスモード：オートフォーカス、マニュアルフォーカス（背面の設定ホイールを使用、被写体の一部を拡大表示するMFアシスト機能付き）

AFモード　1点、11点、スポット、顔認識

露出モード　プログラムAE（P、プログラムシフト可能）、絞り優先AE（A）、シャッタースピード優先AE（T）、マニュアル露出（M）

測光方式　マルチパターン測光、中央部重点測光、スポット測光　輝度分布を確認できるヒストグラムを表示可能

露出補正　±3EVの範囲内で1/3EVステップ

オートブラケット撮影　1/3EVステップ、最大±3EV、3枚撮影

シャッタースピード　30秒〜1/2000秒　フラッシュ使用時：〜1/30秒（通常）、〜30秒（スローシンクロモード/赤目軽減スローシンクロモード）

連続撮影　3コマ/秒、5コマ/秒　最大8コマ（一定のフレームレートでDNG + JPG Fine設定時）

フラッシュ　内蔵フラッシュ：リトラクタブル式、ポップアップ時に電源が入る　フラッシュモード：オート、赤目軽減オート、強制発光、赤目軽減強制発光、スローシンクロ、赤目軽減スローシンクロ、スタジオ（スレーブ機能付きの外部フラッシュ用）

フラッシュ発光量調整　±3EVの範囲内で1/3EVステップ

フラッシュ調光範囲　約0.3～2m（ISO 100/21°時）　ガイドナンバー：5

内蔵フラッシュの充電時間　約5秒（バッテリー満充電時）

液晶モニター　2.7型TFT液晶モニター　ドット数：約23万ドット

液晶モニターの表示　10ページを参照

セルフタイマー　2秒、12秒

インターフェース　USB 2.0（High Speed）対応の5ピンmini USB端子（高速データ送信が可能）、HDMI端子（HDMI対応機器へのデジタル接続用）、電子ビューファインダー ライカ EVF 2用ソケット

電源　リチウムイオンバッテリー（電圧3.7V、容量1600mAh）×1、撮影可能枚数：約450枚（CIPA規格による）　充電時間：約200分（完全放電状態から）

バッテリーチャージャー　入力：AC 100～240V（50/60Hz、自動切替）

本体　ライカの設計による高強度・超軽量のマグネシウム製　キャリングストラップ取り付け部2カ所　ISOに準拠したアクセサリーシュー（中央接点および制御接点を装備、SF 24Dなどの大光量の外部フラッシュや電子ビューファインダー EVF 2[1]を装着可能）

三脚ねじ穴　A1/4（1/4インチ、DIN 4503に準拠）

寸法　約124×69×51.5mm（幅×高さ×奥行）

質量　約307g（バッテリー含まず）、約345g（バッテリー含む）

[1] 別売アクセサリーです（72ページ）。

デザイン、仕様、その他は変更される場合があります。

ライカアカデミー

ライカでは長年にわたり、写真撮影や自然観察のための優れた製品を提供する以外にも、特別なサービスとしてライカアカデミーを開催しています。ライカアカデミーでは、初心者から上級者までのすべての写真愛好家の皆さまを対象に、写真に関する知識を深めていただく目的で、実践的なセミナーやトレーニングコースを実施しています。

セミナーやトレーニングコースは、経験豊富な専門家を講師陣に迎え、ソルムスの本社工場や近郊のグート・アルテンベルクにある最新設備が整った研修施設で行われます。内容は一般的な写真撮影から特殊分野までと幅広く、皆さまの作品づくりに役立つ情報やアドバイスを提供しています。

ライカアカデミーの詳細や、ライカアカデミーが主催する写真ツアーなどのイベントの最新情報については、下記までお問い合わせください。

Leica Camera AG
Leica Akademie
Oskar Barnack Str. 11
D 35606 Solms
Tel: +49 (0) 6442-208 421
Fax: +49 (0) 6442-208 425
E-mail: la@leicacamera.com

ライカインフォメーションサービス

ライカ製品についての技術的なご質問は、下記までお問い合わせください。

Leica Camera AG
InformationService / SoftwareSupport
Postfach 1180
D 35599 Solms
Tel: +49 (0) 6442-208 111 / 108
Fax: +49 (0) 6442-208 490
info@leicacamera.com / softwaresupport@leicacamera.com

ライカデジタルサポートセンター
＜技術的なお問い合わせ窓口＞
Tel: 0120-03-5508
受付時間：
月曜日—金曜日　9：30 - 18：00
祝祭日は受け付けておりません

ライカカスタマーケア
お手持ちの製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーケアセンター、またはお近くのライカ正規販売店までご相談ください。

ライカカメラジャパン株式会社
カスタマーケア
東京都中央区銀座6-4-1 ライカ銀座店内
Tel：03-6215-7072
Fax：03-6215-7073
E-mail：repair@leica-camera.co.jp